

目 次

はじめに 情報処理センター長 矢野 喜夫・・・

ミニ特集 「情報機器の操作」を振り返る

情報リテラシー科目の現在・過去・未来 数学科 佐竹 伸夫・・・・・・

情報機器の操作（生技・保体）を担当して 産業技術科学科 中峯 浩・・・

情報機器の操作（言語・社会）を担当して 理学科 高嶋 隆一・・・・・・

社会人のためのパソコン講座－8年間のまとめ－

理学科 沖花 彰
情報処理センター 高木亜里子・・・・・・

平成16年度情報処理センター利用結果

利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
利用授業時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
利用授業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
IPCニュースの発行状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
行事日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
ワークステーション利用者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	
関連委員会等歴代委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

はじめに

情報処理センター長・教育学科 矢野 喜夫

情報処理センターは今年に入ってから、スタッフや組織、内装などの点で大きな変化がありました。事務補佐員の赤坂雅子さんが昨年末に退職し、今年1月からは、以前に事務補佐員を務めた経験のある高木亜里子さんが後任になりました。情報処理センターとしてようやく実現した専属正職員の技術系事務職員として、3月から本学産業技術科学科出身の秋山剛志さんが就任し、これまでネットワーク関係の事務補佐員をしてもらっていた山下陽子さんは3月末に退職しました。教職員のスタッフとしては、センター次長は昨年度に引き続いて沖花先生と中峯先生の2人体制ですが、現在では中峯先生が中心になっています。

夏休み中に端末室3の拡張改装工事が行われ、端末室3の端末台数が20人分から30人分に増えました。それに伴って従来の管理作業室が一部縮小されて模様替えになり、次長中峯先生と技術系職員秋山さんを中心にしたデスク配置の運営体制ができました。

センターのコンピュータ・システムは平成18年2月に4年目の契約更新の時期を迎えることになり、昨年秋から仕様策定委員会が作られて、システム更新の作業が進められました。その後、官報公示、導入説明会、仕様書作成、入札説明会、入札、技術審査などを経て、8月末に次期システムが決定されました。来年年明け1月は、システム装置の入れ替え作業のために、約半月間、情報処理センターのコンピュータは使用できなくなります。

思えばコンピュータはかつて、一部の研究者が専門的なプログラム技術をもって大型コンピュータを操作し、もっぱら数値計算に使うものでした。周知の通り、それがワード・プロセッサやパーソナル・コンピュータの出現によって、たんに数値計算だけでなく、ことばや映像や音声を処理するものになり、専門的な技術をもたない一般の研究者や職業人がごくふつうに使う道具になりました。

20年以上前だったか、本学の教育実践総合センターに初めて、新発売のデスク式大型ワードプロセッサが入って、その披露見学会があったことがあります。私は、これで日本語もようやく欧米並にタイプライターのようにして文章を書けるようになるのかもしれないが、そんな大きな機械が要るなら一般に使われるのはまだ先のことだと思った覚えがあります。そのときたしか外国人の見学者がいて、その人が「日本語は今までどうやって書いていたのだ」と質問したので、だれかが「和文タイプライターはあるけれど、ふつうは手書きしている」と答えると、その人は「日本語はなんと不便なものか」といった感じで目を丸くしていました。今思うと、隔世の感があります。その後のもう一つの大きな変革は、コンピュータが線につながれてeメールやインターネットの世界が出現したことです。それはほんの10年くらい前のことです。かくして、コンピュータの情報処理 (information processing) 機能は通信 (communication) 機能と合体し、現在の世界的なIT情報革命の時代を迎えることになりました。

今や情報処理センターのシステムは、一部の研究者・学生の専門的な利用だけのためにではなく、すべての教職員や学生のために24時間休まず働いています。その管理や点検・保守の仕事は、電気・水道・電話・ガスに近い、いわばライフラインの保守に似たものになってきています。正常に働いていて当たり前だと私たちが思っているシステムが、どんなに地道な陰の管理保守作業に支えられているかに、一瞬なりとも思っていたしてほしいと思います。

ミニ特集 「情報機器の操作」を振り返る

情報リテラシー科目の現在・過去・未来

数学科 佐竹 伸夫

1. はじめに

私は本年度前期に情報リテラシー科目として、『情報機器の操作(a)』（科目区分： 共通教育（総合））と『情報・言語・コミュニケーション I (c)』（科目区分： 総合科学課程課程共通）の2科目を担当した。前者に関しては、平成 12 年度から 6 年連続で担当（平成 12 年度から平成 15 年度の 4 年間は、前半古谷博史先生で、後半私という分担体制であり、平成 16 年度から私 1 人で担当）しており、後者は、今回が初めての担当である。本稿では、現在、情報リテラシー科目として、何を教えているか、そして、その講義内容は、6 年間でどのように変化したかについて述べ、最後に、来年度に初めて高校で『情報』の科目を受講した学生が本学に入学し、情報リテラシー科目を受講することになることから、情報リテラシー科目の講義内容をそれに合わせて変えていく必要があると思われるが、それについての私見を述べることにする。

2. 現在の情報リテラシー科目の講義内容について

本年度前期に関しては、『情報機器の操作(a)』（木曜 3 限）は受講者 54 名で、数理・自然教育系の 1 回生が主な受講者であり、『情報・言語・コミュニケーション I (c)』（集中）は受講者 37 名で、総合科学課程の幅広いコース・専攻の学生が受講しており、その大多数が 1 回生であった。両科目とも、受講者が情報リテラシーを身に付けることを目的としたものである。今年度の両科目における授業内容の共通部分は、次の通りである。以下は、授業の順番通りに記載してある。

(1) WINDOWS の使用方法

(2) 表計算ソフト EXCEL の入門編： EXCEL による表作成と表内での自動計算

(3) ワードプロ・ソフト WORD による文書作成

(4) インターネットによる情報検索： 各種検索エンジンの解説と、情報検索による得た情報の WORD の文書への取り込み方

(5) PowerPoint によるプレゼンテーション

(6) 表計算ソフト EXCEL の応用編： EXCEL VBA による成績処理

『情報機器の操作(a)』は、数理・自然教育系の 1 回生が主な受講者であるという理由で、(3) の通常の内容に加えて、数式の入力方法を教え、大学数学の入試問題の解答（数式、表、図、グラフが必ず含まれる）を、WORD で文書作成させたり、EXCEL では統計処理方法を教えたりして、受講者が理科系の教員になる上で必要な情報処理能力が身に付くよう工夫している。『情報・言語・コミュニケーション I (c)』は、総合科学課程の幅広いコース・専攻の学生が受講していることから、理科系に偏らないよう配慮した。

情報リテラシー科目を 6 年間担当して、当初の頃と、受講者の情報リテラシー度がどのように変化し、それにともない、授業内容がどのように変わってきているかを述べることにする。

(I) 本授業で、初めて、パソコンに触るという受講者は激減し、ほとんどいないといってよい。また、電子メールの送受信を日常的に使用している受講者が大半であることから、タイピング速度も上がっている。WORD で単純な文書ならば、教えなくても、作成できる学生が多い。これに

ともない、当初の頃、WORD による文書作成にかなりの時間を費やしていたが、その時間を削減し、余った時間を、受講者の希望の多い PowerPoint によるプレゼンテーションの授業に時間を回すことができるようになった。

- (II) 1 番最初の授業開始時点における受講者の情報リテラシー度の差が大きくなった。これは、受講者が在籍していた小中高校での情報教育の熱心さの度合い、さらには、家庭に、あるいは、自分専用のパソコンを持っているかどうかなど、受講者自身の情報収集への熱心さの度合いに依存しており、全般的に、情報リテラシー度は上がったとは言えるが、全員というわけではない。少数ではあるが、タイピングで1つのキーを打とうとするたびに、そのキーを捜している受講者もいる。このような状況から、授業を、どのレベルに合わせて行うかという問題が生じる。それぞれの情報リテラシー科目の授業には、情報教育法の受講者が数人教室にいて、教官の補助に当たるが、彼らがリテラシー度の低い学生につきっきりというわけにも行かない。補講という手もあるが、短時間の補講だけでは十分とは言えないであろう。自己申告による、低レベルの学生を最低限分離した、レベル別の授業が必要と感じている。

6年間を通して、変わらず、学生がためになったという感想を述べている項目は、上記6項目の内、特に、

(2) 表計算ソフト EXCEL の入門編： EXCEL による表作成と表内での自動計算

である。EXCEL の入門編といっても、関数 vlookup や index 等を使用して、表内検索を行うものを多用し、成績処理に役立つ内容を題材として取り上げている。EXCEL でこんなことができるのかという驚きとともに、学習意欲も上がっているようである。EXCEL での簡単な表作成や、そのグラフ化までならば、経験があっても、それ以上の教育は、高校までに受けていないようである。

3. 来年度からの情報リテラシー科目をどのように変えていくべきか

最後に、来年度に初めて高校で『情報』の科目を受講した学生が本学に入学し、情報リテラシー科目を受講することになることから、情報リテラシー科目の講義内容をそれに合わせて変えていく必要があると思われるので、それについての私見を述べることにする。

(I) 情報リテラシー度の低い学生を分離した、レベル別の授業

高校で『情報』の科目を受講した学生が本学に入学するといっても、この科目は、受験科目ではない。そのため、自ずと、高校教師・学生とも、大学受験年度に近づく程、手を抜いてしまう可能性がある。高校によって、熱心さの度合いの違いも大きいであろう。上記の2(II)で述べた以上に、受講者間での情報リテラシー度の差が広がることは容易に想像できる。完全なレベル別授業は、クラス数が増加し、授業時間の設定において難しいにしても、低レベルの学生を、自己申告により分離し、基礎の基礎から授業を行うよう提言する。

(II) 情報リテラシーの低レベル化への対応

私が学生であった20年程度前のことを考えてみよう。その頃は、情報リテラシーと言えば、MS-DOS の基本コマンドは最低限暗記し、また、簡単なプログラムを書けることであった。そのため、自ずと、コンピュータの成り立ちや、コンピュータがどのように計算をするのか、というOSや計算機アーキテクチャに関する知識まで持つことになった。ところが、現在は、Microsoft Office というパッケージに属する既存のアプリケーション・ソフトウェアの基本的な使用方法をマスターするということが、少なくとも本学では、情報リテラシーと同義語になっている。これらのソフトウェアの使用法を学習するのに、OSや計算機アーキテクチャに関する知識は、ほ

とんど必要がなく、私としては、このままでいいのかと、首を傾げざるを得ない。やはり、OSや計算機アーキテクチャに関する知識まで持つことを必要とする、あるいは、それらへの興味を持たせるような題材が必要である。といっても、上記の2(6)で挙げたEXCEL VBAの教育が最適と思っているわけではない。EXCEL VBAにより自由にプログラミングができるようにするには、少なくとも、1学期間の授業を行う必要があり、現在のような短期間の授業では、消化不良になるであろうことは、十分承知しているつもりである。本授業を通して、受講者に興味を持たせるよう工夫し、後は、自習に任せるとというのが、現在のスタンスである。また、EXCEL VBAが、OSや計算機アーキテクチャに関する知識を必要とするかと言われれば、否定せざるを得ない。それでも、現在、教えているのは、EXCEL VBAを理解していれば、EXCELにおける1つ1つの操作の意味を深く理解できるからである。本来は、CASL IIのような、アセンブリ言語が最適なのであろうが、大半が教員志願者の受講生から拒絶反応が出る危惧も残り、2(6)のEXCEL VBAを、他のものに置き換えるべきかどうかは、今後の検討を要する。

(Ⅲ) 情報機器のリテラシーから、情報学のリテラシーへ

この項目は、情報リテラシー科目を、上記の(Ⅱ)から、さらに、範囲を広げるべきであるという提言である。情報学は、今や、理学部や工学部と同等の学部を持つ大学があることからわかるように、単に、コンピュータに関する学問には留まらず、もっと広い学問である。われわれは、日々の会話で情報をやりとりする。また、台所で、茶碗をわったり、水をこぼしたりしたならば、それらを元に戻せないことから、情報の喪失や可逆性の有無を実感する。トランプなどのゲームでは、どのような局面でも、その時点で、わかっている情報とわからない情報を区別して認識することが重要となる。このように、日常の些細なことが、情報学の知識を持つと、今までとは異なった視点から、物事を眺められることになるであろう。情報学の教官としては、そのような情報学のリテラシー科目を1年間位をめどに開講し、その中に、情報機器のリテラシー科目を位置付けることが、理想と感じている。

情報学の教官を中心に、現在、来年度からの情報リテラシー科目をどのように変えていくべきかについて提言をまとめるプロジェクトが始動しているので、本学が来年度から学校教員養成課程の学生のみを募集することを十分認識した上で、小中高校での情報教育の現状や、他大学での情報リテラシー教育の現状を踏まえ、われわれの提言をまとめる予定である。

情報機器の操作(生技・保体)を担当して

産業技術科学科 中峯 浩

1. はじめに

本報告では、平成17年度に開講された情報機器の操作関連科目のうちクラス(b)を担当した中で得られたことや今後の課題について簡潔に報告する。当クラスは、技術科教育専攻、家庭科教育専攻および保健体育科教育専攻からなる3専攻の受講生で構成される。すなわち、指向する専門科目の完全に異なる受講生集団を対象にしているところが大きな特徴である。

2. 講義の内容

単専攻あるいは隣接する専攻からなるクラスの場合、その受講生が専門科目を学んだり、大学生活の中で必要とされるであろう情報技術は的を絞ることが比較的容易である。しかし、本クラスではそのような意味で講義内容を決定することはできない。しかし、本来、「情報機器の操作関連科目」は、教員免許を取得する者に対する必修科目であり、受講生の専門性に左右されるものではないという考えも成り立つ。

そこで、以下のような点に配慮し、講義内容を選定した。

- すべての専攻に必要な基礎的な情報技術（ワード、エクセル、パワーポイントなど）の基本操作を学べること
- 受講生には、教師になったときに必要な情報技術とは何かを少しでも探れるように、ロールプレイングをさせること
- ロールプレイングにおける教科に関しては自由選択をさせ、各自の専門指向も若干は取り入れるように工夫すること

3. 講義の成果

ここで、すべてを報告することはできないが、代表的な成果を示す。まず、図1は、パワーポイントにより、授業の教材を作成するという課題に対する作品例である。これらの受講生は、自専攻の専門以外に題材を見出し、情報技術を有効に活用している。次に、図2は、同じ課題に対して、自分自身の専門性を活かそうとした教材作成例である。これらの受講生は、情報技術の活用を学んだ上で、さらに専攻内における今後の活動の動機付けのきっかけを本講義内で見つけたようである。

なお、本講義では、毎時間ごとにレポートを電子メールで提出させる形式を採用した。それに伴い、レポート受理の確認メールや内容に対するコメントメールを必ず返信するようにした。大変な作業ではあるが、受講生には好評であった。



図1 製作例その1



図2 製作例その2

4. おわりに

本報告では、説明しきれない部分が多いが、受講生に対する導入を工夫することで、異なる指向をもった受講生からなるクラスでも有効に学習を行えることを示した。

来年度以降、高等学校における教科「情報」を学んだ学生がいよいよ入学してくる。それに伴い、これまでのようないわゆるワード・エクセルの使い方を教えるような授業は、その時間を短縮できる可能性がある（できると断言しないのは、高校における情報への対応がさまざまだからである）。

そうなった場合には、教員養成大学として必要な「情報機器の操作」を再構築できるチャンスが与えられる。将来、教師になるときに必要な情報技術（アプリケーション、ハードウェア、ネットワーク）の基礎、マナーのレベルも含めた情報倫理および教員採用試験に役立つ情報リテラシーなど、内容の吟味が必要である。本稿を読まれた方々からの意見も広くいただきたいと考えている。

情報機器の操作(言語・社会)を担当して

理学科 高嶋 隆一

科目担当の背景

学部改組の情報系の将来を議論するなかで、本学の基礎的情報リテラシー教育関係の授業担当者が足りないとのことなので、この授業をお引受けしました。言語・社会系の学生を担当することになったのは、私の担当授業の空きコマの関係です。

科目の材料の選択

とにかく、計算機操作の基本的アプリケーションになれるということが目標ですので、現状では高校段階の必修「情報」を受けて来た学生でないので、先ずそのレベルの教材を探したところ、本学の電子メール・インターネット、表計算ソフト EXCEL、MS-WORD 入門、プレゼンテーション入門の各利用手引き書があることに気づきました。また情報リテラシー的な基本文書を探したところ、高エネルギー加速器研究機構の森田洋平氏作成の資料があることを思いだし、利用させていただきました。また、エクセル等の利用にあたっては統計データをどう見るかに付いて、統計誤差の概念が重要であると思いましたので、パワーポイントで資料を作成し、2項分布、ポアソン分布、正規分布の概念を説明するための材料としました。また画像データについては、ネットワークからの取得と IPC のスキャナーを利用しました。動画ファイルに付いては、リアルムービーファイルを利用しました。これらの材料は、リンクを学生が利用できるように、wiki を使って提示しました。

[http://natsci.kyokyo-](http://natsci.kyokyo-u.ac.jp/~takasima/pukiwiki/pukiwiki.php?%BE%F0%CA%F3%B5%A1%B4%EF%A4%CE%C1%E0%BA%EE)

[u.ac.jp/~takasima/pukiwiki/pukiwiki.php?%BE%F0%CA%F3%B5%A1%B4%EF%A4%CE%C1%E0%BA%EE](http://natsci.kyokyo-u.ac.jp/~takasima/pukiwiki/pukiwiki.php?%BE%F0%CA%F3%B5%A1%B4%EF%A4%CE%C1%E0%BA%EE)

授業の中で気づいたこと

演習室が広いので、後ろの方の学生が私語をしたり、出席はとっていましたが、出席率が低下して来たので、課題の演習を提出させることにしました。提出文書はネットワークからアップロードし、学籍番号ごとのディレクトリに格納されるようにしました。学籍番号をいれると、提出された文書のリストをクリックして表示されるようになっています。

この提出文書で、スキャナーのデータをフォトタッチする演習をしたものについて、かなりの学生が圧縮無しで数十Mバイトのデータを送って来たのには困りました。スキャナーのデフォルト設定が 1200DPI 等の高解像度のままであったのが問題でした。やはり計算機のデータに付いての知識がまだ不十分な学生が多いです。

文書作成の演習をかねて、レポートの提出を2度、情報リテラシー、マルチメディア関係のテーマで求めました。別の授業でも起きたことですが、レポートでは自分の記述が中心であるべきなのに、引用部分を示さないでネットワークからコピーし張り付けたと思われるものが多く出ました。これに付いては、引用部分の明示を十分注意するべきだと思いました。

今後の課題

本学の学生の傾向とも言えるものと思いますが、あまり基礎的なことを学ぶことを重視せず、実用的な側面だけを学ぼうとするのは困ったものです。計算機の上で実際どのようなことが起きているかに付いて関心がないので、理解が常に表面的なことにとどまる傾向にあります。表計算ひとつにしても、統計的な考えかたが重要なのに、数学的な確率統計の知識がほとんどないので、数値の意味が理解できていない可能性が高いです。これを解決することは「情報機器の操作」では無理なので、他の教科との連携が必要となると思います。

社会人のためのパソコン講座－8年間のまとめ－

社会人のためのパソコン講座－8年間のまとめ－

理学科 沖花 彰
情報処理センター 高木亜里子

§ 1. はじめに

平成 10 年度からはじめた「社会人のためのパソコン講座」は平成 17 年 9 月、第 24 回をもって終了した。この講座は情報処理センターの地域開放講座の一環として「高校生のためのパソコン講座」(平成 5 年度～平成 12 年度 年 1 回集中実施)¹⁾に引き続いて開いてきた。「高校生のためのパソコン講座」は IT 社会が始まった頃高等学校での IT 基盤整備がまだ十分でないとき、大学が、より整備された環境を高校生に提供するという趣旨で開設された。それに対しこの「社会人のためのパソコン講座」はどんどん進んでいく IT 社会になかなかついていけない社会人(特に中高年齢層)のために大学が IT に親しみ、楽しんでもらう機会を提供する目的で設置された。したがってスキル向上のパソコン教室とは性格を異にし、できるだけ多くのはじめての方に来ていただくことが本講座の趣旨であった。後述するようにここ数年受講者層が講座開設時の趣旨から少しずつ離れてきており、ここで講座をいったん終了することにした。

これまで 8 年間にわたり各方面に多大なご支援をいただいていたこの講座を振り返っておくことは今後の情報処理センター並びに本学の地域開放事業にとって必要なことと考え、ここにまとめを行い、報告する。

§ 2. 実施日

講座は日本語ワープロ WORD 入門と表計算 EXCEL 入門を交互に、年 3～4 回行った。実施日は以下のとおりである。ここで W は WORD、X は EXCEL 入門である。

1)H10.12.13W 2)H11.6.27X 3)H11.10.27W 4)H12.3.5X 5)H12.6.11W 6)H12.10.1X
7)H13.3.4W 8)H13.6.10X 9)H13.9.2W 10)H13.11.25X 11)H14.6.9W 12)H14.9.8X
13)H14.12.13W 14)H15.3.2X 15)H15.6.8W 16)H15.9.7X 17)H15.12.7W 18)H16.2.29X
19)H16.6.6W 20)H16.9.5X 21)H16.12.12W 22)H17.3.6X 23)H17.6.5W 24)H17.9.7X

いずれも日曜もしくは祝祭日に開催し、午前 10 時～12 時が午前の部で WINDOWS 入門、午後 1 時～5 時が午後の部で WORD もしくは EXCEL 入門を行った。午後の部は基礎編と応用編に分かれ応用編では WORD はポスター作成、EXCEL は簡単な家計簿作成を行った。(資料 1 に両テキストの目次を添付する。)

§ 3. 受講者について

図 1 に各回の受講者数を男性・女性別に表した。定員は毎回 50 人であるが当日のキャンセルなどを見込んで数名多めに受け付けている。案内配布から 1 週間以内で定員を充足する盛況で、ほとんど定員割れすることがなかった。申し込みが定員をオーバーするとその時点でお断りをしているが多いときで 20 名を超えるとときもあった。性別では女性がほぼ男性の 2 倍であったが、これは公開講座の一般的な傾向である。

図 2 に受講者の平均年齢の推移を示す。回を追うにつれて上昇し最近では 60 歳に達している。

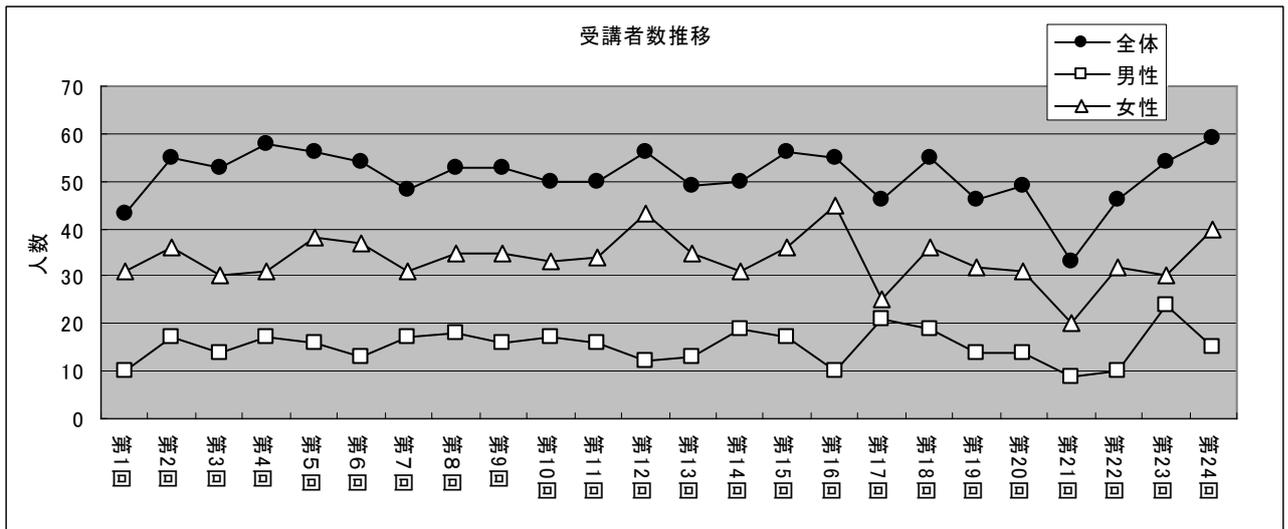


図1. 各回の受講者数

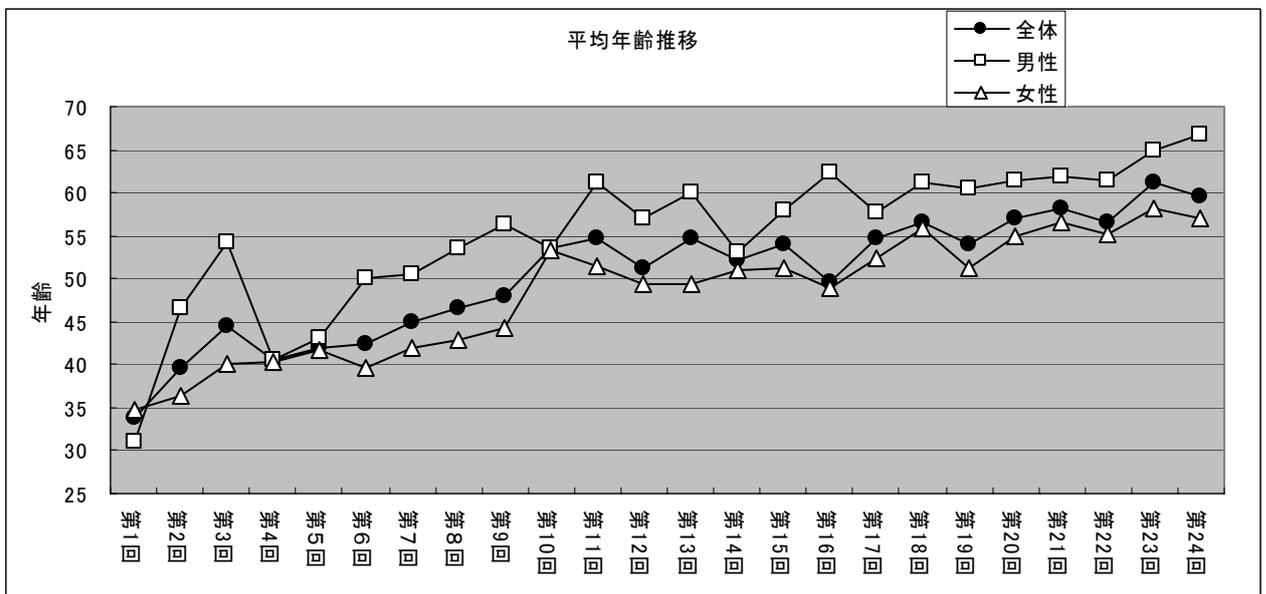


図2. 各回の平均年齢

これは IT が社会に浸透し高年齢層への広がりとも受け取れる。こういった層は一般のパソコン教室ではあまりなじまないと思われ、こういう層への入門講座は開かれた大学の社会的責務でもある。平均年齢は女性に比べ男性の方が 5~10 歳程度上である。各回受講者の年齢分布 (図 3) を見ると男性が退職後の 50 代以上が大半であるのに対し女性は 40 代からも参加が多い。最近では 70 代が男性で 3 割以上、女性で 1 割程度ある。パソコン講座でここまで高年齢層が多いのも本講座の特徴である。ちなみに 24 回を通じて最高年齢は男性で 79 歳、女性で 75 歳、最少年齢は男性で 17 歳、女性で 16 歳であった。まさに 3 世代が同居する講座であった。

図 4 に受講者の受講回数を示す。受講者の延べ人数は 1227 人であるが実人数は 716 人である。この差が複数回受講した人数となる。WORD と EXCEL は別々の講座ではあるが 2 回受講した人は全体の 3 割以上あった。3 回以上受講した人数は 1 割強であるが最高で 11 回という常連の方もいた。受講内容は 2 回ずつの繰り返しであるので 3 回以上参加される方は同じ講座を 2 回以上聞く

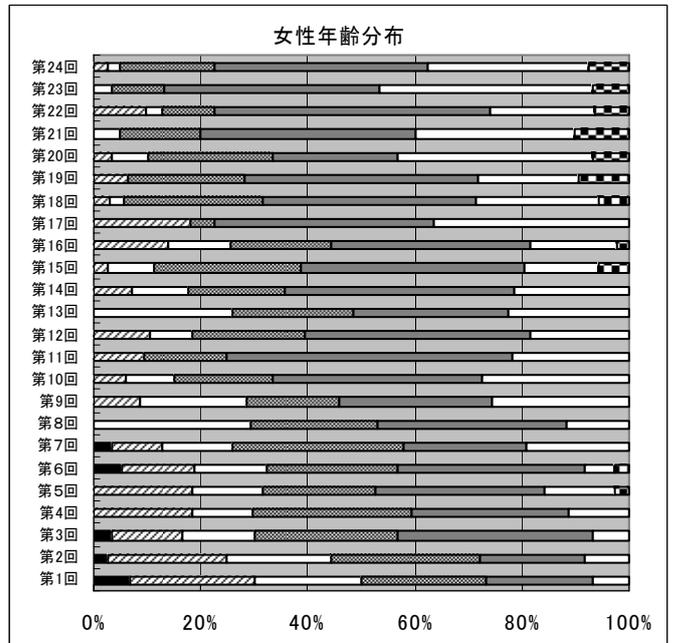
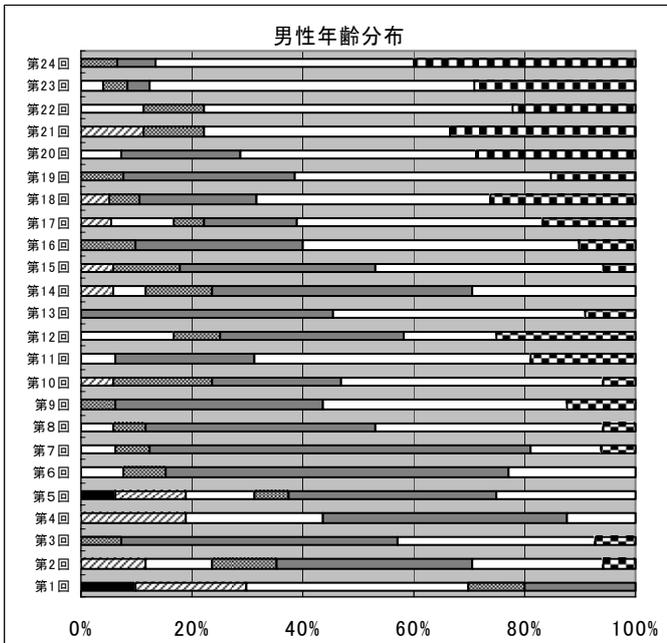
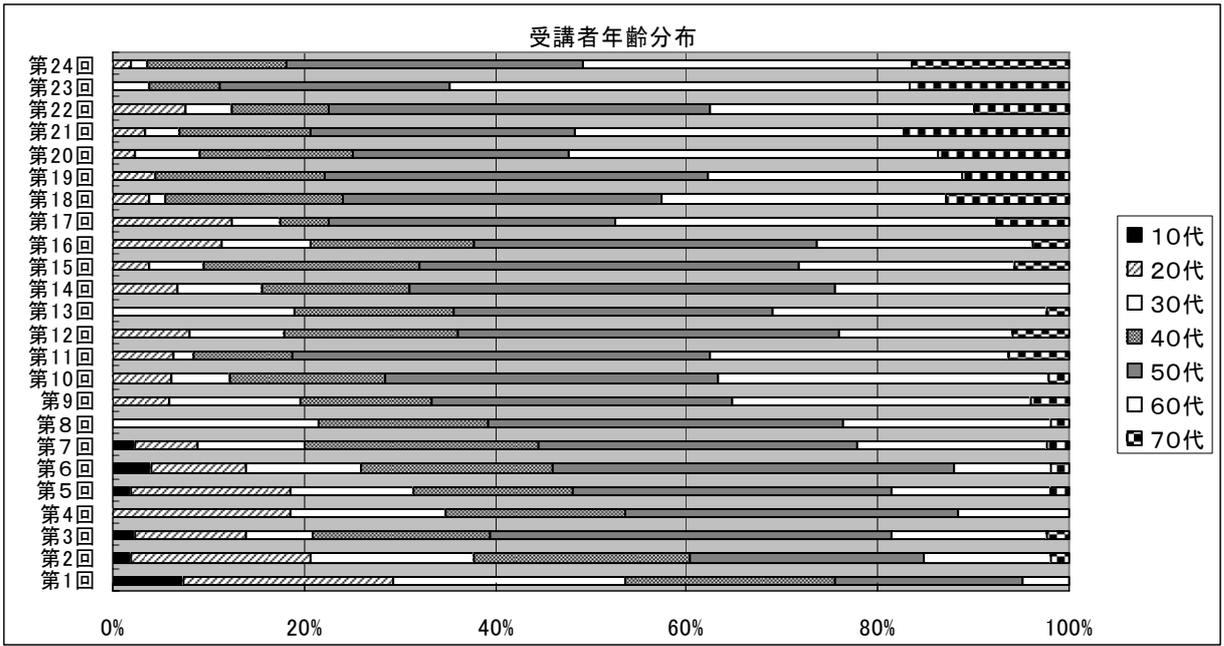


図3. 受講者年齢分布

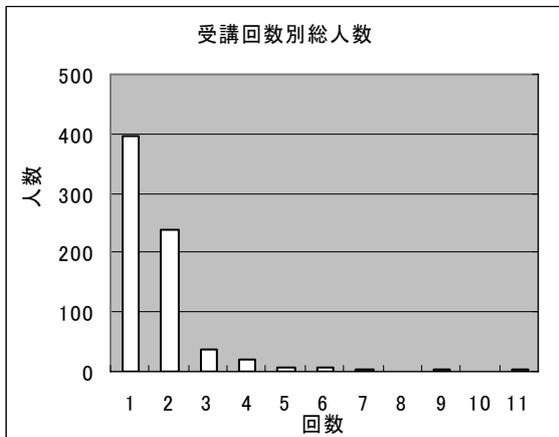


図4. 受講回数別人数

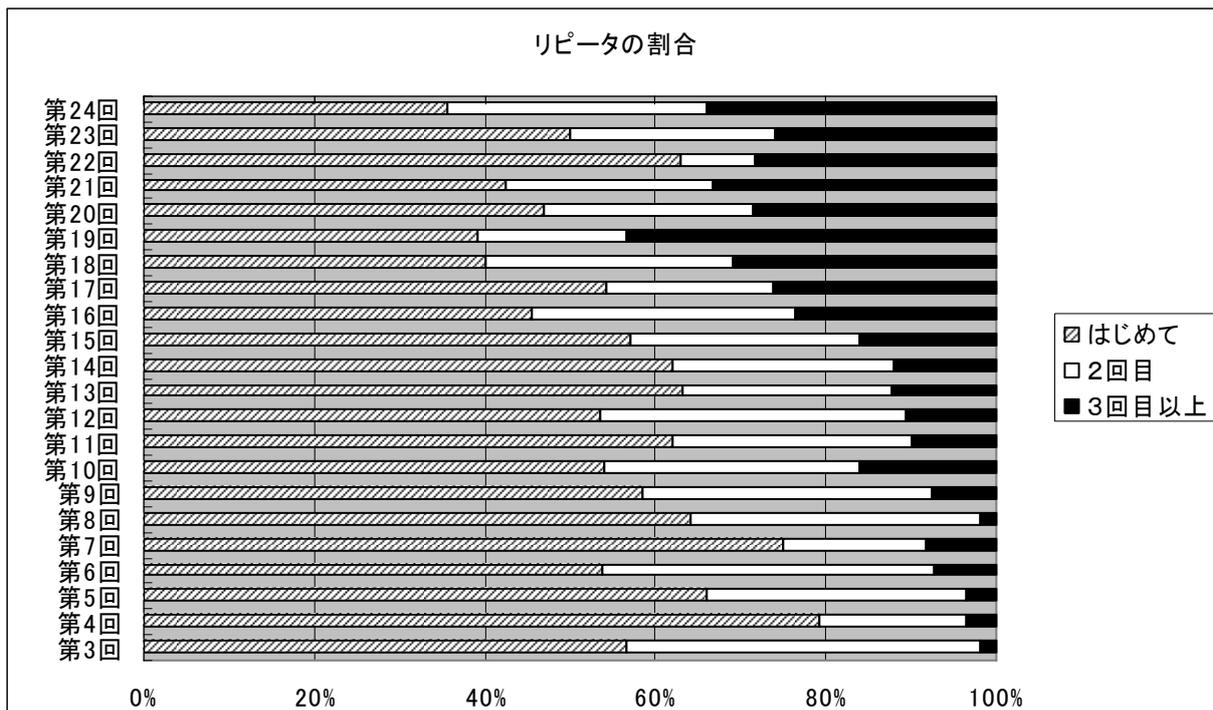


図 5. 各回ごとの受講回数別人数

ことになる。このいわゆるリピータの数は年々増加し(図 5)、ここ 1,2 年は全受講者の 3 割に達し、その分、この講座の本来の対象であったはじめての方は 4 割を切るまでになった。この状況が今回この講座にピリオドを打つ理由である。

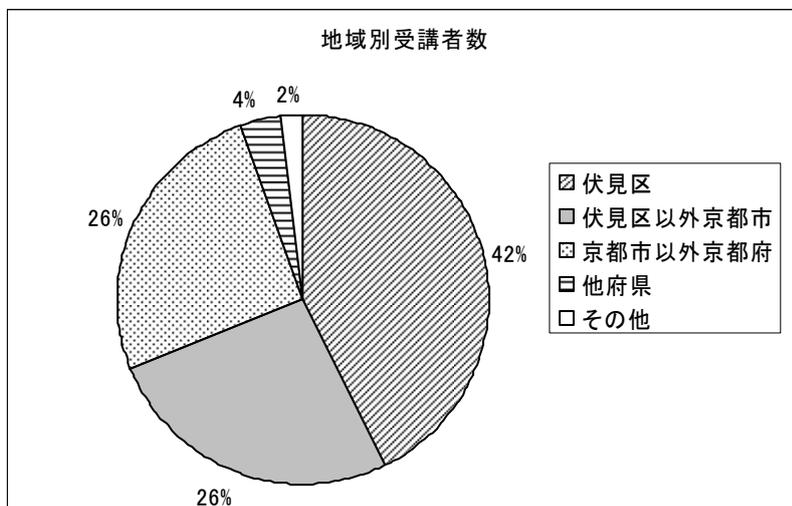


図 6. 地域別受講者数

京都市内伏見区以外の主な区

山科区	67	5.7%
南区	47	4.0%
右京区	40	3.4%
西京区	39	3.3%

京都市以外の主な市町村

宇治市	145	12.4%
城陽市	52	4.4%
向日市	28	2.4%
長岡京市	28	2.4%

次に、図 6 に 24 回全体での地域別参加者数を示す。伏見区が 4 割を占め一番多く、宇治市、山科区と続く。宇治市は伏見区に隣接しており JR などによる交通の便も良い。この講座の学外への広報はリビング新聞によるものが半数を占める。リビング新聞の配布地域は京都市全域、向日市、長岡京市、大山崎町、宇治市、城陽市、久御山町、亀岡市 (H17 年度から対象外) で約 65 万部 (H17 より約 50 万部) となっている。

§ 4. 講座開始までと開始後の事務的作業

1回の講座の準備は約1ヶ月前から始まり、講座終了後受講アンケート及び受講者に関する集計をもって終了する。これら一連の作業を全て一人の事務補佐員が担当した。

(1) 各回の事務担当者

事務担当者はすべてその当時の情報処理センター事務補佐員である。以下にお名前を記載し併せて謝意を表す。

第1～10回 高木亜里子 第11,12回 高橋千歳 第13,14回 武田美紀
 第15～21回 赤坂雅子 第22～24回 高木亜里子

(2) 準備作業の主な内容と流れ

<開催日から約1ヶ月前から準備を開始>

- ・インストラクタ補助員（本学女子学生）を5名募集。謝金に関する手続きを行う。
- ・リビング新聞（リビング京都サロン）に広告原稿をFAXで送付。広告料を振り込む。



図7. リビング新聞に掲載された広告

- ・ポスター（学内掲示用A3及び郵送配布用A4）作成。
- ・案内状（学内配布用及び前回参加者郵送用）作成。
- ・前回講座の参加者（2回以上受講された方は除く）宛てに、案内状とポスターを送付。
- ・大学HP（トピックスのページ）にポスターを掲載。
- ・学内教職員あて案内配布。ポスターを学内に掲示。
- ・リビング新聞「リビングサロン」のページ、「教えます」欄「趣味・教養」分野に広告掲載。リビング新聞に掲載されたものを図7に示す。
- ・広告掲載料に関する支払い手続きを行う。

<2週間前申し込み受付開始>

リビング新聞に掲載されると同時に申し込みが始まる。

- ・申し込みをはがきで受け付ける。（はがきのみで受け付け、電話などでは受け付けない。）参加受付表に記入し、受講許可証（返信はがき（図8））を送付する。

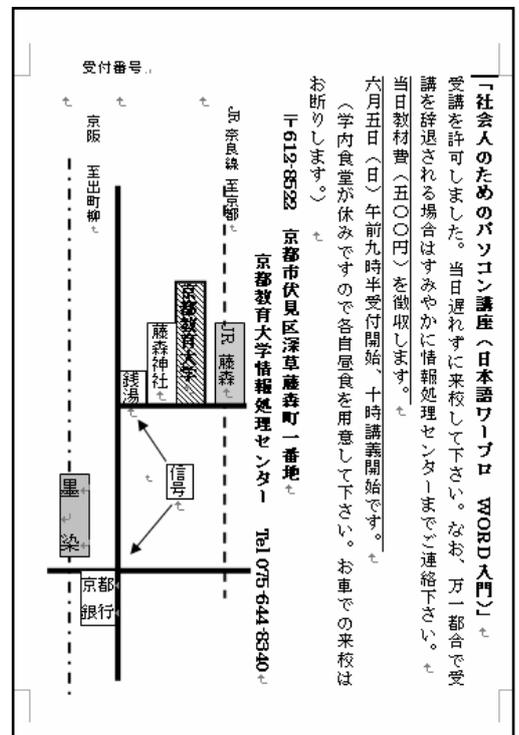


図8. 受講許可証

- ・定員 50 人+ α （キャンセルを見込んで数名余分にとる：最大 58 人）を超えた場合「お断り」のはがきを送付する。
- ・教材準備
 - フロッピーディスクの作成
 - （キーボード練習用プログラム及び EXCEL 用家計簿データを保存したものを受講生分用意）
 - 講座用 ID の登録と確認
 - テキスト及び補充プリント（ローマ字・かな対応表）の用意、
 - テキスト表紙に ID を記入（受講者が当日使用する ID）
- ・その他の諸準備
 - 受講者用休憩所の確保、案内板の用意（前日設置）、当日の諸掲示物用意、領収書、おつり・・・

（3）講座終了後の作業

- ・講座終了の翌日、実施報告書を会計課に提出。
- ・ポスターの回収。
- ・出席者の合計人数と各年代別人数、アンケートを集計する。

§ 5. 受講料と補助金

受講料 第 1 回のみ 受講料 1000 円

第 2 回以降 受講料無料（ただし実費教材費 500 円）

注：徴収した受講料もしくは教材費は受講者へ配布するフロッピー代と切手・はがき代にあてた。

○第 2～4 回

地域交流委員会より補助を受ける。「教育・研究振興基金」「奨学研究補助者に対する謝金」

補助員謝金（6 時間×5 人×3 回）、郵便代、フラットファイル（教材用）、フロッピーディスク

平成 11 年度補助 89,235 円

○第 5～7 回 同上補助

補助員謝金（7 時間×5 人×3 回）郵送費、印刷費は要求しない

平成 12 年度補助 84,000 円

○第 8～10 回 同上補助

補助員謝金（7 時間×5 人×3 回）、広告料+振込手数料（42,315 円×3 回）

平成 13 年度補助 210,945 円

○第 11～22 回 同上補助

補助員謝金（7 時間×5 人×4 回）、広告料+振込手数料（42,315 円×4 回）

平成 14～16 年度 281,260 円／年

○第 23～24 回 同上補助「寄付金」

補助員謝金（7 時間×5 人×2 回）、広告料+振込手数料（38,115 円×2 回）

平成 17 年度 132,230 円

§ 6. 受講後のアンケート

毎回受講生にアンケートを取り、講座の改善の参考資料とした。

(1) 難易度はどうだったか？

講義内容の難易度を聞いた。結果を図9に表す。回によってやや異なるが、半数程度が普通もしくはやや易しいと答えている。「かなり難しい」から「かなり易しい」までを5~1とすると平均値は全体で3.5、WORDのみで3.6、EXCELのみで3.3であった。ややWORDのほうが難しかったようであるが、「やや難しい」と「普通」の間ということでおおむね講座内容のレベルは受講生に適していたと思われる

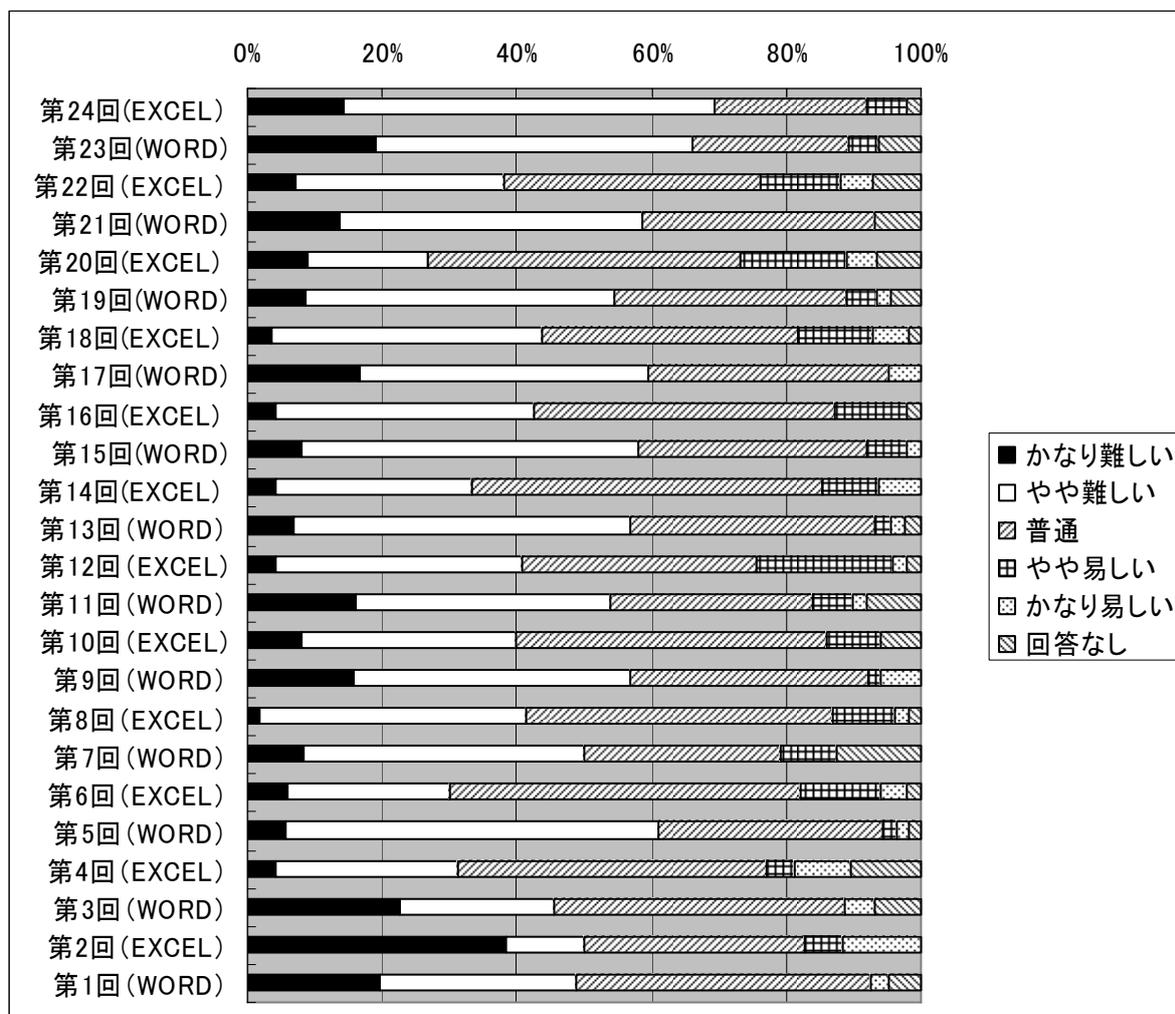


図9. 受講生アンケート難易度はどうだったか

(2) 進度はどうだったか？

講義の進度に関するアンケート結果を図10に示す。これもWORDのときとEXCELのときで幾分WORDのときのほうが、進度がやや速いと感じる受講生が多かったが、全体としては6~7割の受講生が普通もしくはやや遅い・遅いという感想であった。これも「かなり速い」から「かなり遅い」までを5~1とすると平均値は全体で3.4、WORDのみで3.5、EXCELのみで3.2であった。これもおおむね講座内容のレベルは受講生に適していたと思われる。

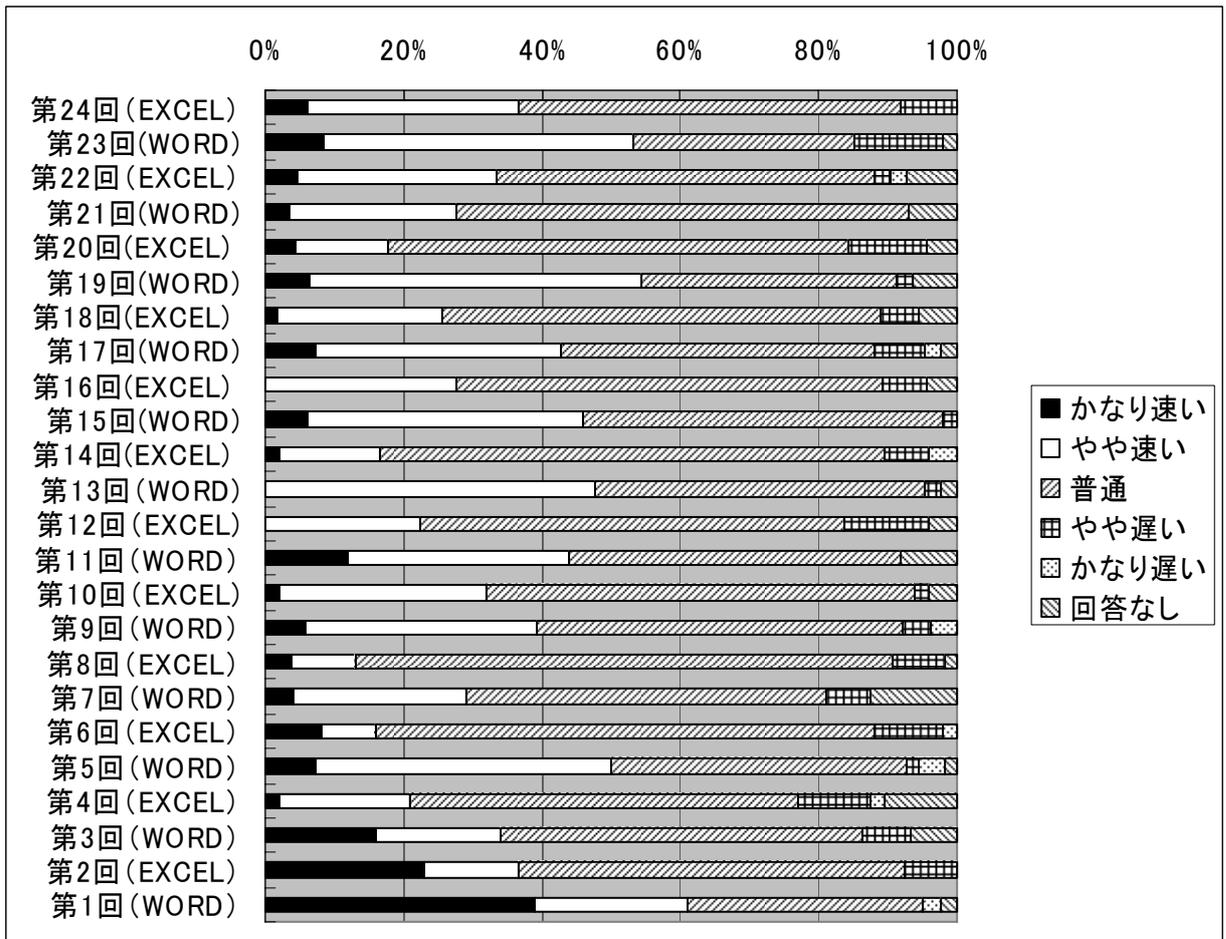


図10. 受講生アンケート進捗はどうだったか

(3) この講座を知り得た媒体

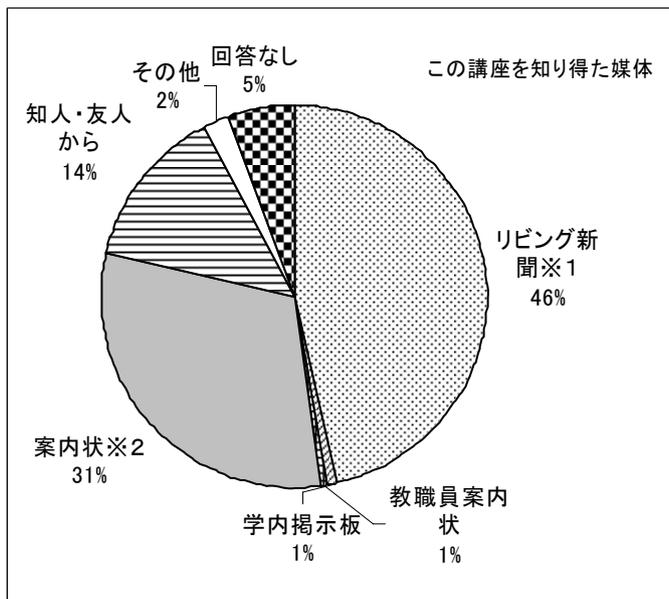


図11. 受講生アンケートこの講座を知り得た媒体

最後にこの講座を知り得た媒体について問うた。結果を図11に示す。約半数がリビング新聞で、2回目の方は前回参加者向けに配布した案内状で知り得ている。リビング新聞の配布地域・配布部数についてはすでに§3で述べたが、はじめての方への大きな広報媒体となっていることがわかる。また知人・友人からが15%近くを占め、口コミによる広がりも重要であることがわかる。大学のHPへの掲載は第23回からになるので全体での比率はわからないが、2回目限りでは多くはなかった。

- ※1 京都リビング新聞：「リビングサロン」のページの「教えます」欄に「趣味・教養」分野で掲載
※2 前回の講座に申込のあった方宛に案内状を出している。ただし前々回にも申し込んでいた（つまりすでに2回連続申し込んだ）方には出していない。

§ 7. まとめ

「社会人のためのパソコン講座」は京都教育大学の地域開放事業の中でもとくに成功した講座であると言える。この講座は受講料、広報の仕方、準備から後作業までなど多くの点において通常の公開講座で決められている方式とは違う形をとった。それが返ってこの講座が8年にわたって定員をつねに充足してきた成功の鍵があるのかも知れない。

最後にある年の講座の授業風景を載せて終わりとする。



図1 2. 第15回社会人のためのパソコン講座授業風景

参考

- 1) 「開かれた大学」としての情報処理センターの取り組み，沖花・大藪，情報処理センター年報1999（2000）pp.41-45

資料 1-1. 社会人のためのパソコン講座 WORD 入門テキスト目次

◆◆ 午 前 の 部 ◆◆

1. 機器の説明	1 頁
(1) パソコンの各部	
(2) プリンターについて	
(3) フロッピーディスクについて	
2. Windows に慣れよう	2 頁
フォルダとアイコン	
マウス操作	
その他のウィンドウの操作	
マウスの右ボタン	
3. キーに慣れよう	5 頁
(1) アルファベット	
(2) 主な特殊キー	
(3) 早うちゲームをやろう	
4. パソコンの終了	6 頁
5. ブラインドタッチ入門	6 頁

◆◆ 午 後 の 部 ◆◆

6. 日本語ワープロ入門	7 頁
Ms-Word の起動と終了	
日本語変換	
Ms-Word の使い方 その 1	－自己紹介の文書を作る－
Ms-Word の使い方 その 2	－イラストを貼る－
Ms-Word の使い方 その 3	－案内状を作る－
7. 終わりに	19 頁

◆◆◆◆ 付 録 ◆◆◆◆

ローマ字・かな対応表

資料 1-2. 社会人のためのパソコン講座 EXCEL 入門テキスト目次

◆◆ 午 前 の 部 ◆◆

1. 機器の説明	1 頁
(1) パソコンの各部	
(2) プリンターについて	
(3) フロッピーディスクについて	
2. Windows に慣れよう	2 頁
フォルダとアイコン	
マウス操作	
その他のウィンドウの操作	
マウスの右ボタン	
3. キーに慣れよう	5 頁
(1) アルファベット	
(2) 主な特殊キー	
(3) 早うちゲームをやろう	
4. 日本語入力	6 頁
Ms-Word の起動と終了	
日本語変換	
5. パソコンの終了	8 頁

◆◆ 午 後 の 部 ◆◆

6. 表計算ソフト EXCEL 入門 第 1 部 成績処理	8 頁
MS-EXCEL の起動と終了	
画面の説明	
データの入力	
集計計算その 1 - 合計点の出し方	
集計計算その 2 - 平均点の出し方	
セルの複写	
罫線を引く	
ファイルの保存	
7. 表計算ソフト EXCEL 入門 第 2 部 家計簿	12 頁
ファイルを開く	
費目の入力	
いろんな小計の計算	
差引残高の計算	
グラフの作成	
印刷	
8. 終わりに	15 頁

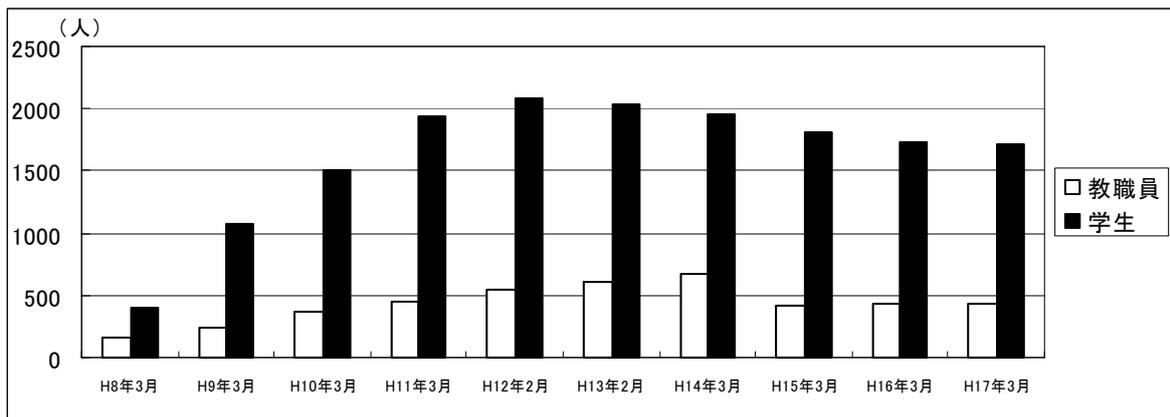
平成16年度
情報処理センター
利用結果

平成16年度利用状況

§ 1. 電子メール

(1) 電子メール登録者数 (H17.3.22 現在)

大学教員	142人	附属教員	157人	事務職員	129人		
学部学生	1453人	研究生	54人	院生	137人	合計	2150人

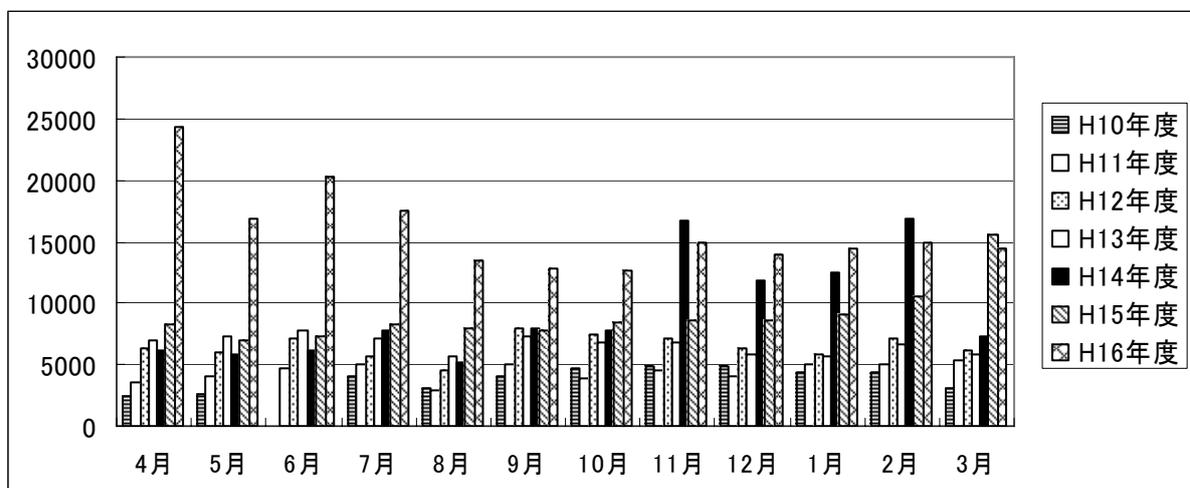


過去10年間電子メール登録者数推移

平成12年度より学部改組に伴い学生定員が1学年420人から300人に減少し、その結果学生登録者数も減少したが15年度以降はほぼ横ばいである。教職員数もここ数年変わりが無い。1-4回生は編入生も含め入学時に自動登録され、全学生が登録している。教職員は大学教員、附属教員、事務職員の他名誉教授も含まれる。教職員のメールはこれまで本人からの希望で付与していたがH17年度からは着任時に大学から付与する形をとる。

(2) 電子メール送受信数 (H16年4月～H17年3月)

4月	24374件/日	5月	16842件/日	6月	20212件/日	7月	17581件/日
8月	13468件/日	9月	12843件/日	10月	12691件/日	11月	14838件/日
12月	13997件/日	1月	14388件/日	2月	14911件/日	3月	14364件/日

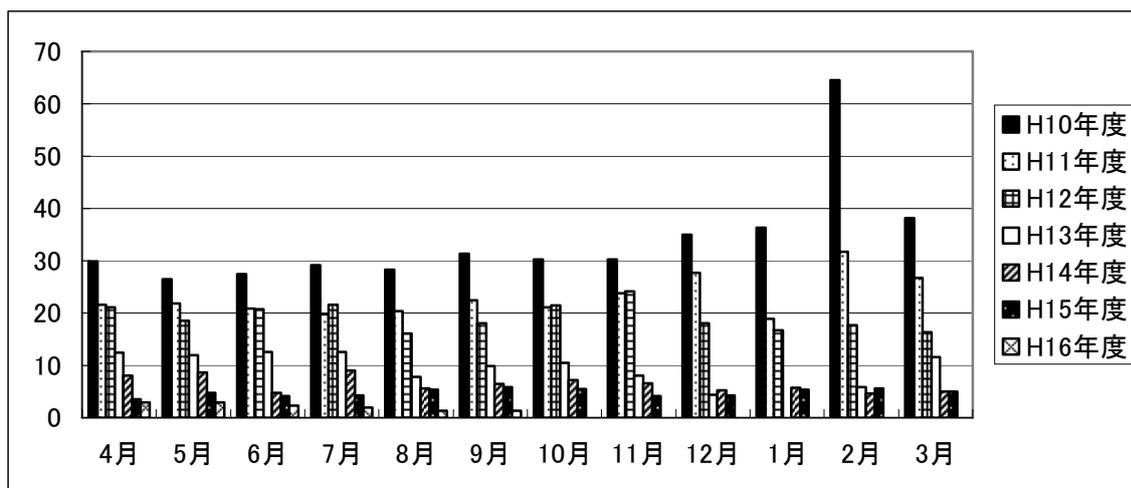


月別1日あたり電子メール送受信数

1日あたりのメール送受信数を示す。H16年度はほぼすべての月において前年度までを大幅に越えた。利用者数は増えてはいないので増加した数のほとんどはウイルスによるものと迷惑メールであると考えられる。しかし後述のウイルスメール検知数の月別変動とはあまり似ていない（§9 ウィルス対策参照）ことから迷惑メールの影響が大きいことが示唆される。通常のメール送受信数は約8000通/日程度である。

(3) ダイアルアップ (PPP) 接続時間数 (H16年4月～H16年9月で終了)

4月 2.9時間/日 5月 2.9時間/日 6月 2.3時間/日 7月 2時間/日
8月 1.3時間/日 9月 1.3時間/日



1日当たりのPPP接続時間数 (時間)

ダイアルアップ回線はこれまで7回線あり、すべてのメール登録者にサービスを提供してきたが年々、利用が減ってきていた。こういった利用率の低下に加え、学内ネットワークの安全確保上の点から、平成16年9月末でサービスを停止した。

(4) メールサーバ利用者用ディスク使用量(H17.3.22 現在)

利用者領域 (/home) 総容量 108.4GB 使用率 28%

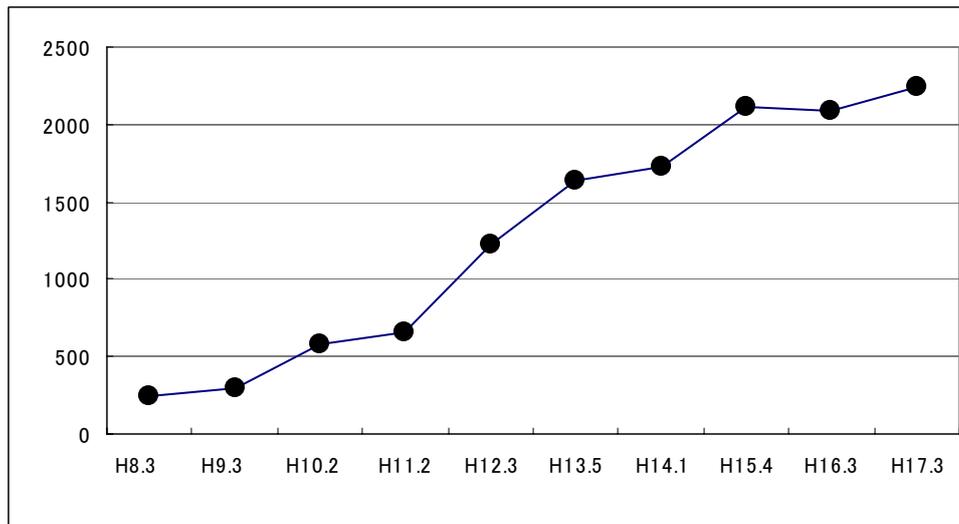
§ 2. ネットワーク

(1) 学内ネットワーク接続クライアント数 (H17年3月末)

情報処理センター	227	A、C、理科教育棟	222	F棟	22
B棟、実践総合センター	271	G棟	136	D、特美、トレセン棟	67
本部庁舎	171	大会館等	38	図書館	64
国際交流会館	80	環境センター	14	高校	177
養護学校	55	桃山中学校	202	幼稚園	22
桃山小学校	125	京都中学校	198	京都小学校	149
				合計	2240台

平成11年ATM導入以降学内ネットワーク接続数は急速に増大している。現在学内すべての研究

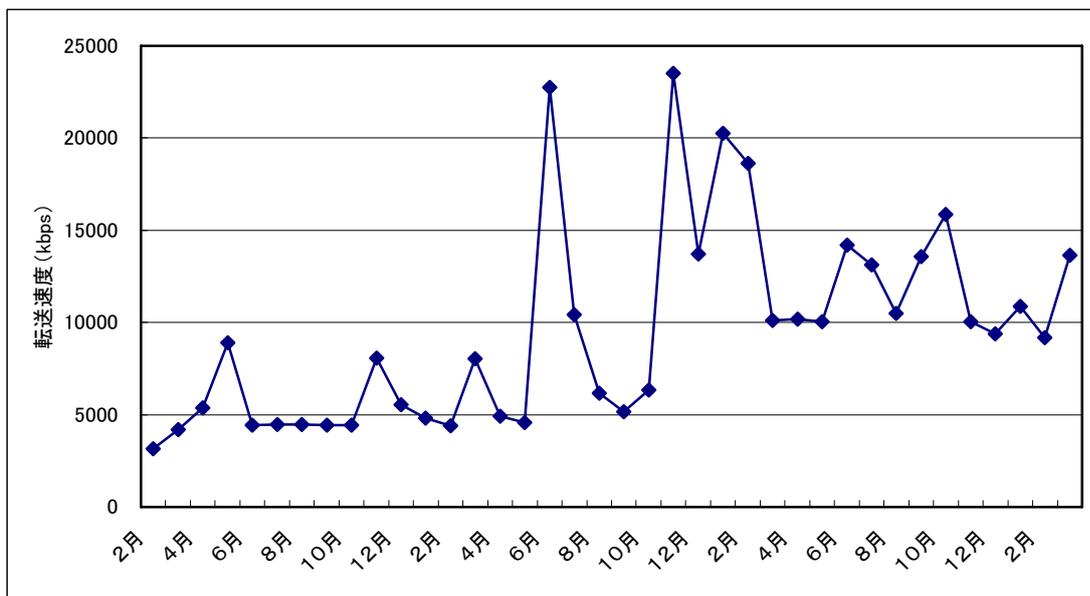
室・講義室・演習室・事務室に 100Mbps の情報コンセントが敷設されている。学生の集まるところには平成 14 年度から無線 LAN のアクセスポイントを 17 カ所設置している。



学内ネットワーク接続端末数推移

(2) トラフィック状況

a) 学外 (SINET) との通信量 (H14.2~H17.3)

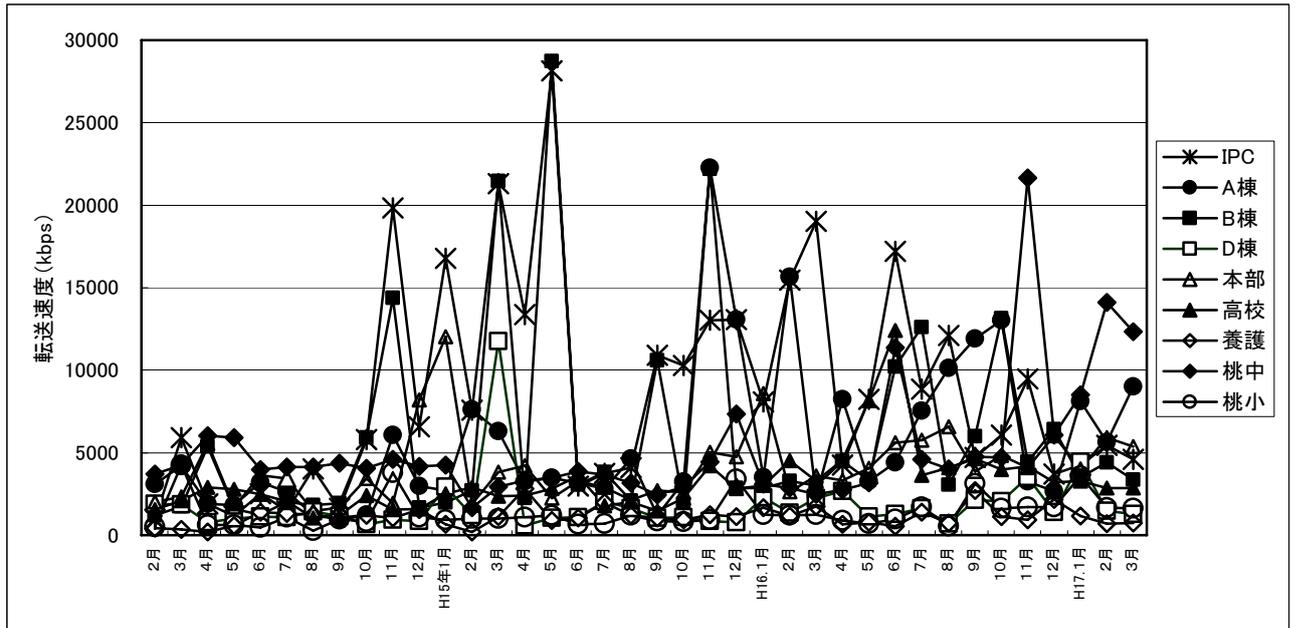


月ごとの最大通信量

本学のネットワークは平成 15 年 7 月より、京都の地域ネットワークである大学間情報ネットワークを介して、SINET へ 100Mbps で接続している。回線増強後の学外との通信量は平均 15Mbps である。

b) 学内の通信量 (H14.2~H17.3)

ATM 交換機と各建物の ATM スイッチとの間の通信量を示す。



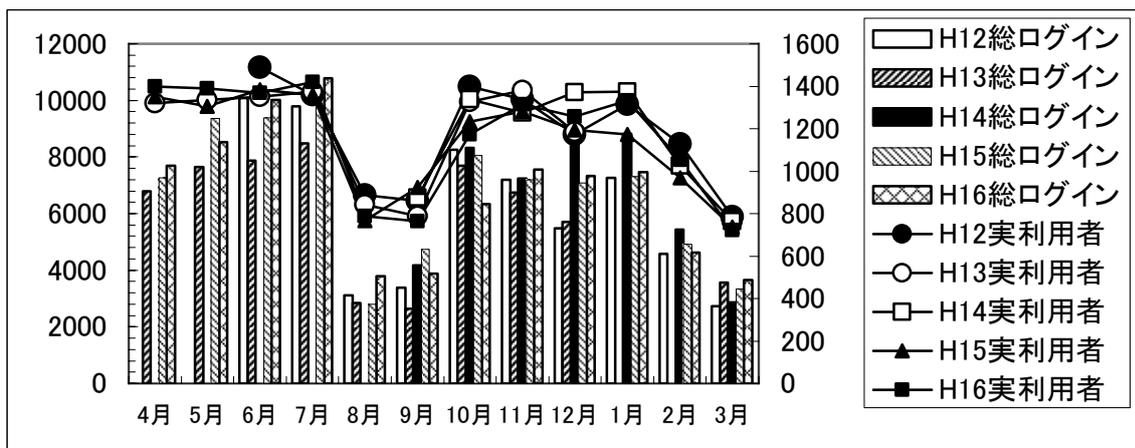
本学のすべての建物内には H14 年 4 月より 100Mbps の高速 LAN が敷設されている。桃山中学校、A 棟、IPC で通信量が多く 10Mbps を越えている。

§ 3. 端末室利用

(1) 端末室パソコン利用者数 総ログイン数 (実利用者数) (H16.4~H17.3)

4月	7698	(1397)	5月	8535	(1390)	6月	10015	(1367)	7月	10773	(1421)
8月	3796	(787)	9月	3871	(763)	10月	6344	(1172)	11月	7547	(1313)
12月	7332	(1257)	1月	7456	(1331)	2月	4615	(1052)	3月	3652	(723)

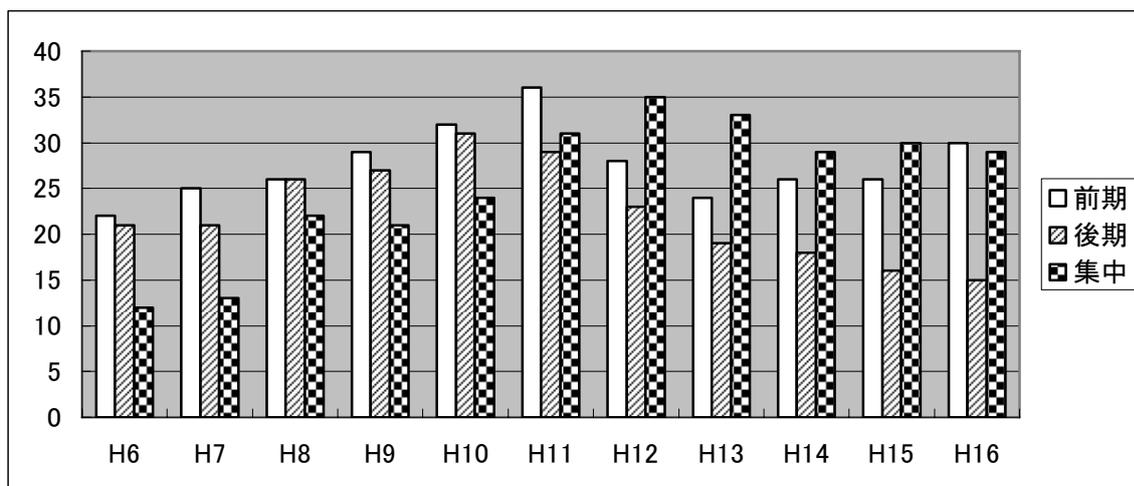
総ログイン数は毎月の利用延べ人数を指し、実利用者数が重複のない利用人数を表す。授業休止期間を除いて、毎月 1400 人程度の利用者(ほとんど学生)が情報処理センターの端末を利用している。ほぼ全ての学生が毎月 1 回は利用していることになる。年ごとの利用者数の傾向は変わらない。



月ごと端末ログイン回数 (左軸)、実利用者数 (右軸)

(2) 端末室授業利用コマ数 (H16 年度)

前期 30 コマ 後期 15 コマ 集中授業 29 コマ



年間端末利用コマ数推移

平成 12 年度より改組に伴い大幅なカリキュラム変更があり、全授業数が減少した。そのため IPC 授業利用数もやや減少した。前期に片寄る傾向があるのは情報基礎科目などを入学後早い時期に履修させるという措置の結果である。平成 16 年度の時間割は 頁参照。

§ 4. ワークステーション利用

1. 研究用ワークステーション (H17.3.22 現在)

(1) 登録者数

教職員 30 人

学生 17 人 合計 47 人

(2) 利用者用ディスク使用量

利用者領域 (/home) 総容量 17.4GB 使用率 59%

2. 教育用ワークステーション (H17.3.22 現在)

(1) 登録者数

教職員 16 人

学生 164 人 合計 180 人

(2) 利用者用ディスク使用量

利用者領域 (/home) 総容量 10.1GB 使用率 25%

§ 5. 貸出機器利用数

(1) 館外貸出

端末室以外での授業利用として、A4 ノート 20 台、B5 ノート 3 台、液晶プロジェクタ 1 台、デジタルビデオカメラ 2 台、デジタルカメラ 1 台を貸し出している。授業期間中は A4 を講義室で利用することが多い。B5 は教員の出張時の利用が多い。

	A4ノート パソコン	B5ノート パソコン	液晶 プロジェクタ	デジタル ビデオカメラ	デジタルカメラ
2004年4月	7	20	8	2	0
2004年5月	135	8	11	1	0
2004年6月	151	28	9	6	0
2004年7月	151	35	10	11	0
2004年8月	48	23	0	15	0
2004年9月	193	24	8	17	0
2004年10月	111	0	4	48	2
2004年11月	174	8	10	26	0
2004年12月	173	1	7	38	16
2005年1月	177	25	6	10	0
2005年2月	131	18	3	0	0
2005年3月	139	16	2	7	2

(台)

月毎機器利用のべ台数

(2) 館内貸出

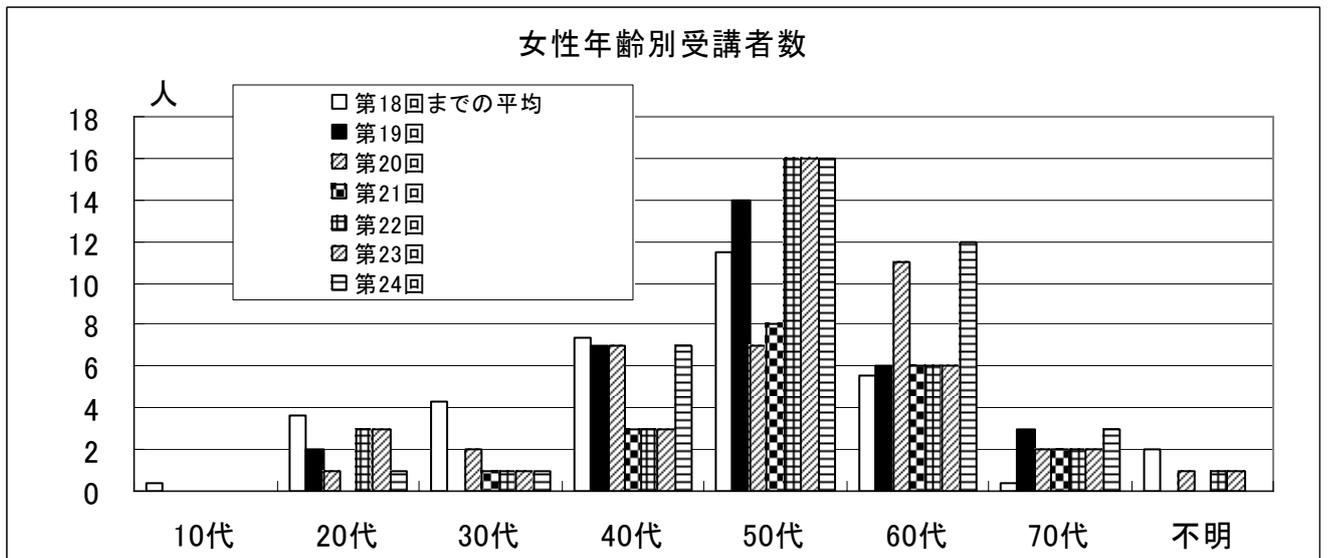
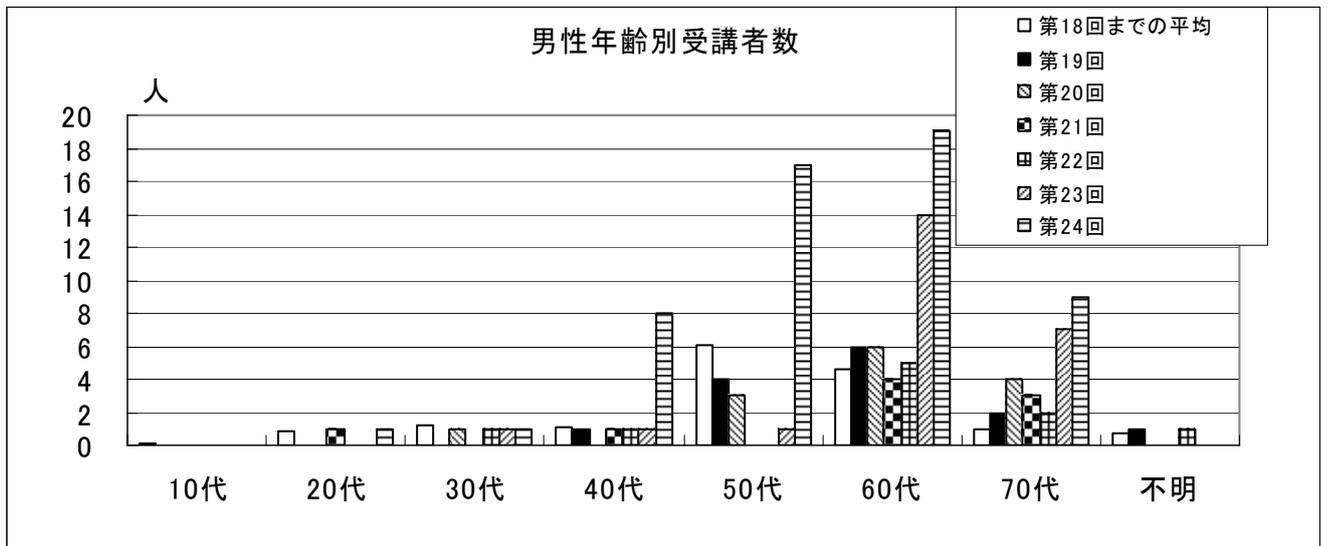
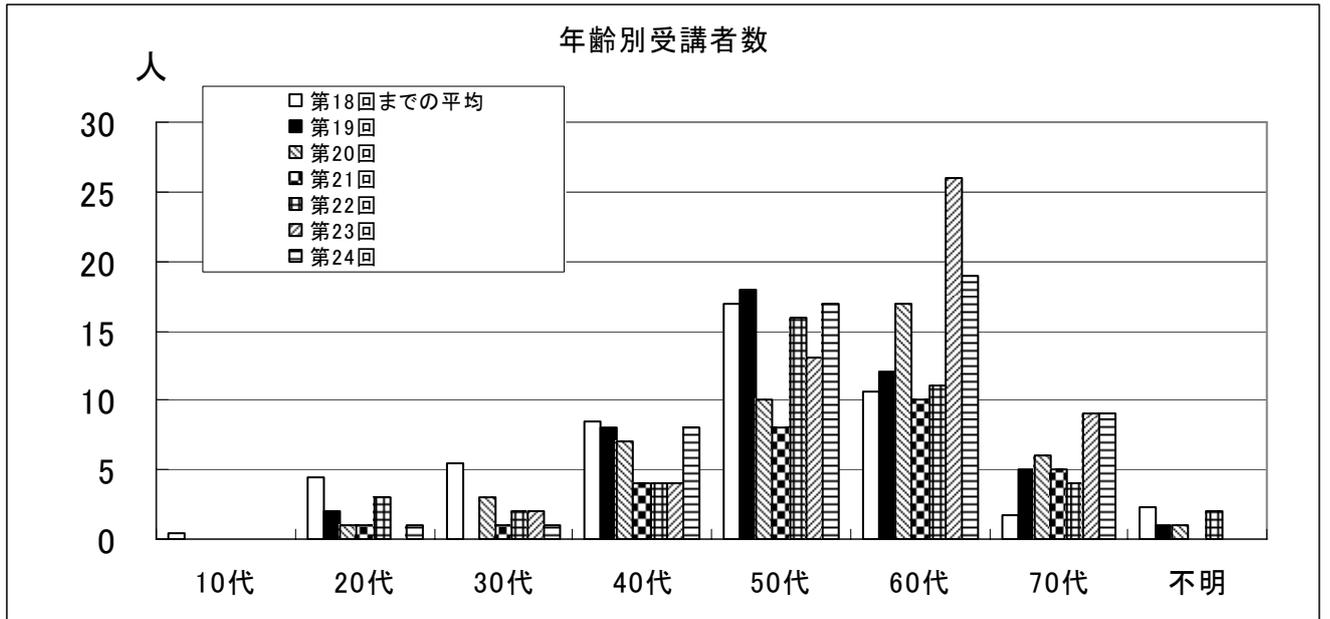
MO	183	マルチカード	24	
メモリースティック	28	DVD	3	
		合計	238件	

§ 6. 地域開放

1. 社会人のパソコン講座 (H17年度分を含む)

- 第19回 (Word 入門) 6月6日 (日) 受講者46名 男14名 女32名
- 第20回 (Excel 入門) 9月5日 (日) 受講者45名 男14名 女31名
- 第21回 (Word 入門) 12月12日 (日) 受講者29名 男9名 女20名
- 第22回 (Excel 入門) 平成17年3月6日 (日) 受講者42名 男10名 女32名
- 第23回 (Word 入門) 6月5日 (日) 受講者54名 男24名 女30名
- 第24回 (Excel 入門) 9月11日 (日) 受講者55名 男15名 女40名

この講座は平成10年から行っており、毎回定員(50名)を越える申し込みがあるが平成16年度はやや減少気味で第20回ははじめて40人をわった。内容は初心者向けのWORD、EXCELの講習会である。受講者の平均年齢は年々上がっている。なお本年第24回をもって本講座を終了した。

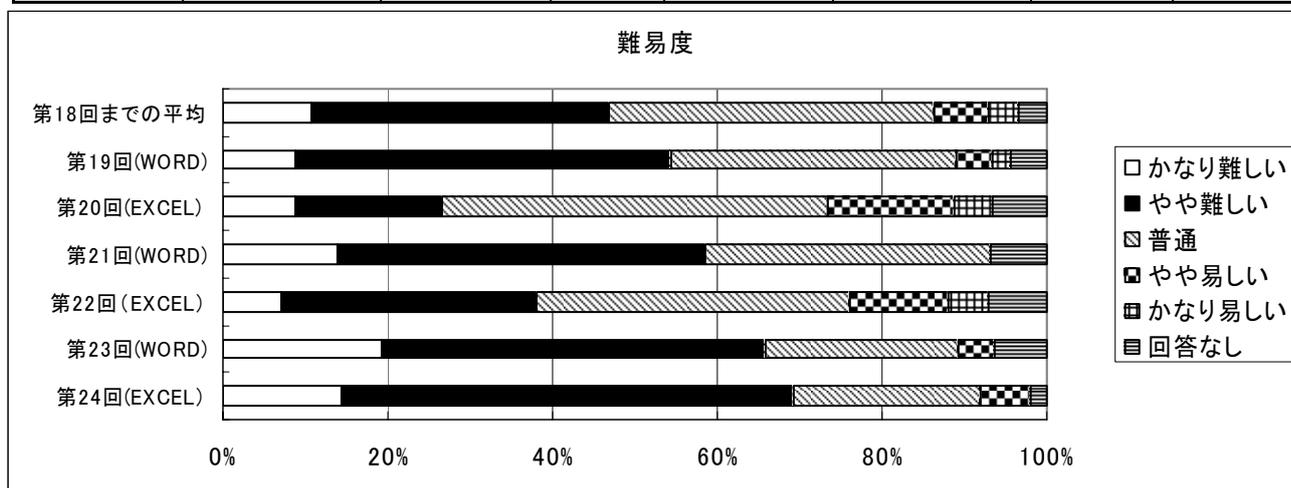


受講者のアンケート調査結果

1. 難易度

(単位:人)

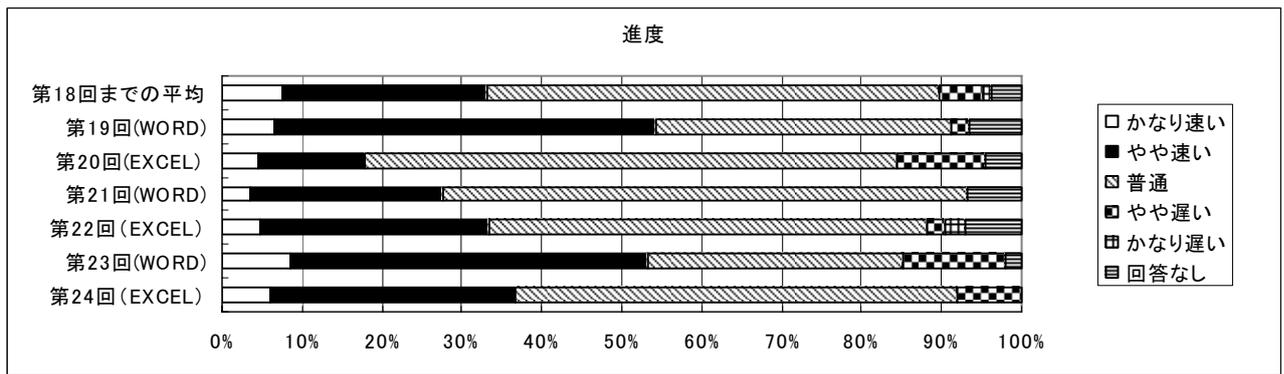
	かなり難しい	やや難しい	普通	やや易しい	かなり易しい	回答なし	集計人数
第18回までの平均	5	18	19	3	2	2	49
第19回(WORD)	4	21	16	2	1	2	46
第20回(EXCEL)	4	8	21	7	2	3	45
第21回(WORD)	4	13	10	0	0	2	29
第22回(EXCEL)	3	13	16	5	2	3	42
第23回(WORD)	9	22	11	2	0	3	47
第24回(EXCEL)	7	27	11	3	0	1	49



2. 進捗

(単位:人)

	かなり速い	やや速い	普通	やや遅い	かなり遅い	回答なし	集計人数
第18回までの平均	4	13	28	3	1	2	49
第19回(WORD)	3	22	17	1	0	3	46
第20回(EXCEL)	2	6	30	5	0	2	45
第21回(WORD)	1	7	19	0	0	2	29
第22回(EXCEL)	2	12	23	1	1	3	42
第23回(WORD)	4	21	15	6	0	1	47
第24回(EXCEL)	3	15	27	4	0	0	49

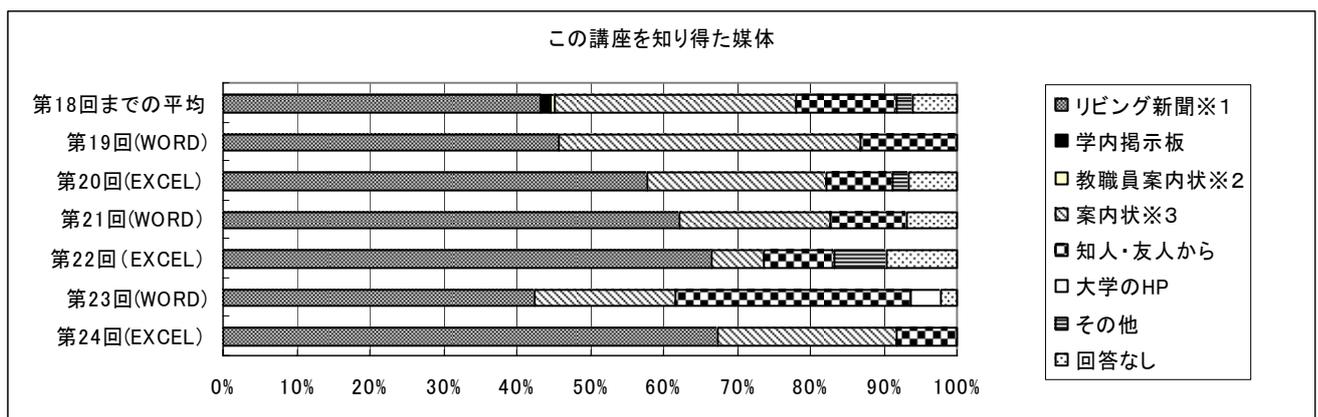


難易度はWORDのほうがやや難しいという傾向でEXCELは適度な難易度と思われる。進度は19, 23回でやや速いという印象があるが他は適度な進捗と受け取られている。

3. この講座を知り得た媒体

(単位：人)

	リビング新聞 ※1	学内掲示板	教職員案内状 ※2	案内状 ※3	知人・友人から	大学のHP	その他	回答なし	集計人数
第18回までの平均	21	1	0	16	7	0	1	3	46
第19回(WORD)	21	0	0	19	6	0	0	0	46
第20回(EXCEL)	26	0	0	11	4	0	1	3	42
第21回(WORD)	18	0	0	6	3	0	0	2	29
第22回(EXCEL)	28	0	0	3	4	0	3	4	38
第23回(WORD)	20	0	0	9	15	2	0	1	47
第24回(EXCEL)	33	0	0	12	4	0	0	0	49



※ 1 京都リビング新聞：リビングサロン「教えます」欄に「趣味・教養」分野で掲載

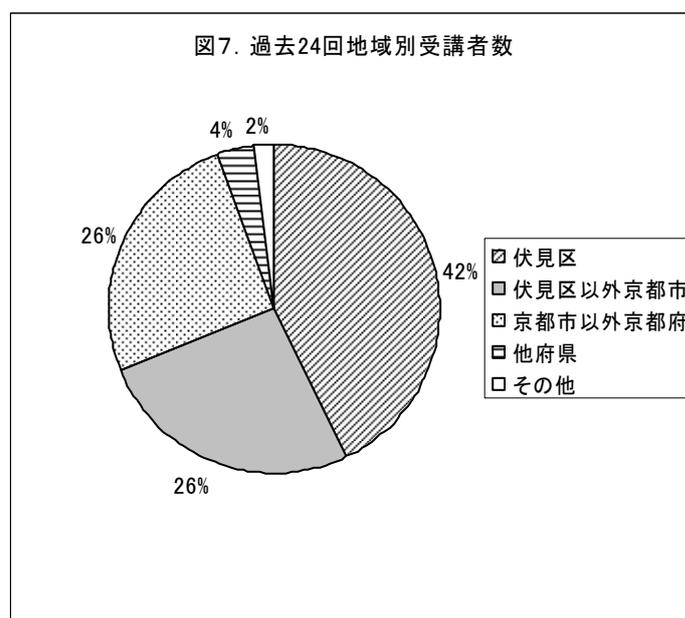
※ 2 第3回以降アンケートが4択になり、教職員への案内を見た人も「案内状」欄に印をつけているため、第3回以降は0になっている。

※ 3 前回の応募者に案内状を出している。

4. 出席者地域別集計

	初回からの合計	初回からの平均
合計	1174	49
北区	31	1
上京区	15	1
左京区	31	1
右京区	40	2
中京区	17	1
西京区	39	2
下京区	9	1
東山区	12	1
山科区	67	3
伏見区	501	21
南区	47	2
宇治市	145	6
乙訓郡	11	0
久世郡	10	1
城陽市	52	2
長岡京市	28	1
八幡市	10	0
亀岡市	11	0
相楽郡	1	0
向日市	28	1
京田辺市	4	0
大阪府	29	1
滋賀県	6	0
兵庫県	2	0
奈良県	6	0
その他	23	1

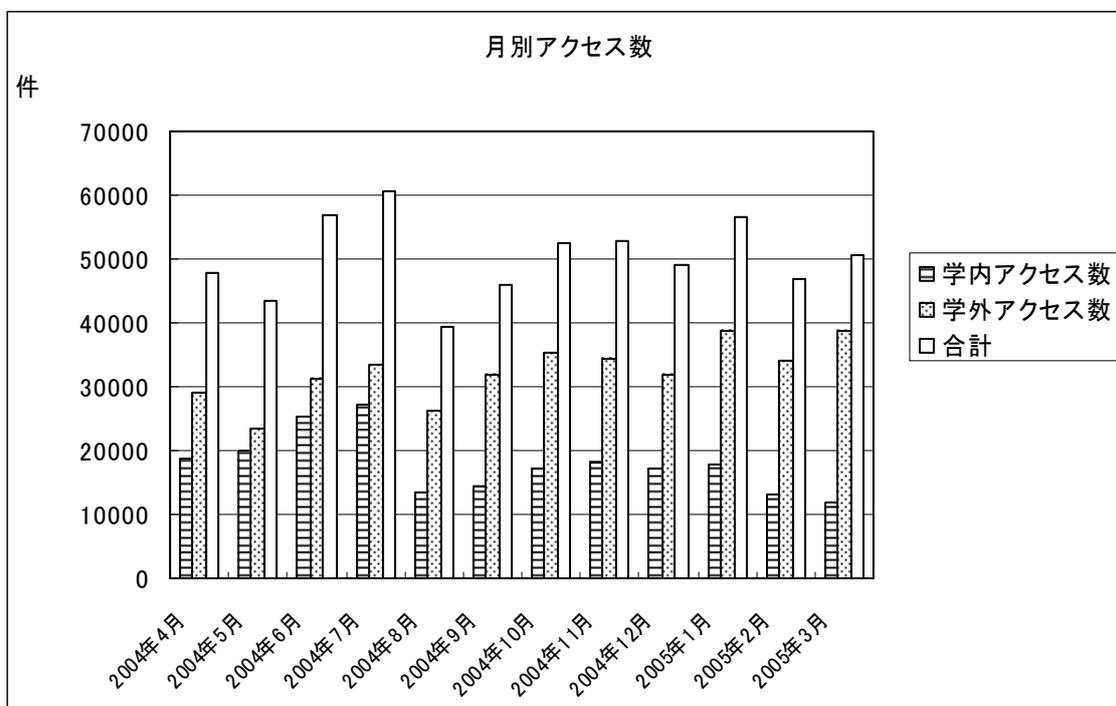
	初回からの合計	初回からの平均
伏見区	501	21
伏見区以外京都市	308	13
京都市以外京都府	300	13
他府県	43	2
その他	22	1



§ 7. 京都教育大学ホームページアクセス数

本学のホームページは、セキュリティ上、学内からのアクセス用と、学外からのアクセス用を区別して別サーバに格納している。両者の内容はアクセス数のカウンタのみ異なり、他の部分は毎日自動的に学内から学外へコピーされるので全く同じである。平成16年度における学内からのアクセス数と学外からのアクセス数を示す。学外からは毎月3万件程度のアクセスがある。年度後半にアクセスが多いのは入試情報へのアクセスが多いためと思われる。逆に学内アクセスは前期のほうが多い。これはIPCの各パソコンのブラウザのホームアドレスが本学のホームページに設定されているためIPC利用の多い月は多めに出るためと思われる。

	学内アクセス数	学外アクセス数	合計
2004年4月	18634	29141	47775
2004年5月	20048	23386	43434
2004年6月	25428	31406	56834
2004年7月	27245	33418	60663
2004年8月	13378	26139	39517
2004年9月	14230	31803	46033
2004年10月	17258	35157	52415
2004年11月	18260	34450	52710
2004年12月	17222	31931	49153
2005年1月	17689	38778	56467
2005年2月	13014	33936	46950
2005年3月	11733	38805	50538



§ 8. 学内一括送信配信数

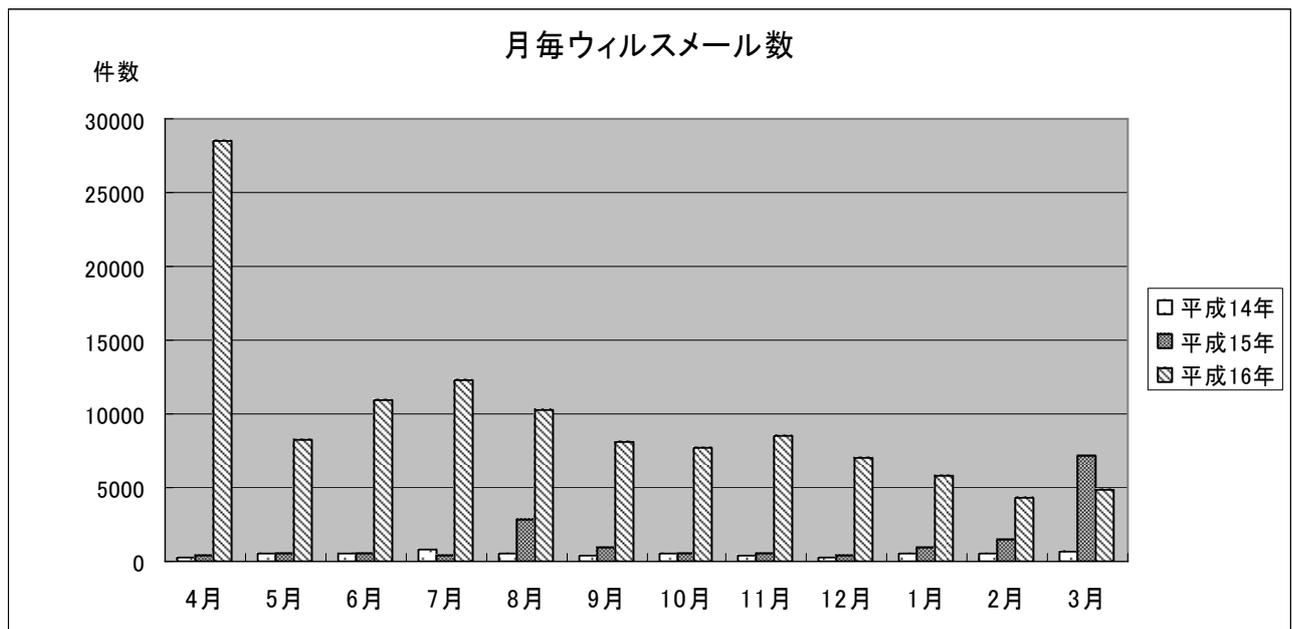
本学では学内教職員、学生に対して周知の迅速化及び徹底化を図るため、周知内容を各部局から情報処理センターに依頼し、以下の所属階層ごとに電子メールで送付する一括送信サービスを行っている。平成 16 年度依頼された各階層ごとの一括送信数は以下の通りである。依頼元は主に学内委員会、事務局、附属センターである。

全一括送信	133
教職員一括送信	61
全教員一括送信	12
大学教員一括送信	44
附属教員一括送信	0
職員一括送信	3
全学生一括送信	24
学部学生一括送信	0
院生一括送信	0
合計	277 件

§ 9. ウィルス対策

1. メールサーバによるウィルス駆除

本学のメールサーバにはウィルス駆除システムが導入されており、学外からウィルスに感染したメールが送信されてきた場合サーバで検知し、受信者にはそのままでは送らないようにしている。平成 14～16 年度にウィルスを検知し対処したメール件数を示す。昨年は急増している。平成 16 年度 1 年間で合計 116713 件もあり H15 年度(16718 件)に比べ約 8 倍に上っている。(ちなみに H14 年度は 6022 件であった。)



2. ウィルス駆除ソフト配信システム利用数（H17年6月）

全学のパソコン端末に対し、ウィルス駆除ソフトの導入を徹底するため、ウィルス対策サーバにウィルス駆除ソフト配信システムを導入している。情報処理センターのHPからウィルス駆除ソフトがダウンロードでき、その後は配信サーバの管理のもと、ウィルス定義ファイルの自動更新、パソコンの自動チェックが行われる。現在このサービスを利用している端末数は以下の通りである。全学的に見ればまだまだ少ないので今後このサービスの拡大を図り、学内の情報セキュリティの徹底に努めたい。配信サービスを受けていない端末の一部はそれぞれでウィルス駆除ソフトを導入しているが、ウィルス対策を施していない端末もまだ多いと思われる。

A、C、理科教育棟	34	B棟、実践総合センター	70	G棟	25
D、特美、トレセン棟	14	本部庁舎	87	大学会館、図書館	22
国際交流会館、環境センター	3	高校	0	養護学校	16
桃山中学校	46	幼稚園	12	桃山小学校	12
京都中学校	46	京都小学校	8	その他	22
					合計 417台

§10. インターネット配信

動画ストリーミング配信システムにより、学内の主な行事を動画配信している。インターネット配信のホームページは本学のホームページから開くことができる。昨年度配信した企画を以下に示す。

平成16年4月4日	ふれあい伏見フェスタ	主催：地域交流・広報委員会
4月7日	入学式	
8月7日	オープンキャンパス	(大学説明会)
11月19～21日	藤陵祭	主催：学生生活委員会・藤陵祭実行委員会
平成17年3月25日	卒業式	

情報処理センター利用授業時間割表 (平成16年度前期)

		月	火	水	木	金
1 限	I室			数値解析論 I 若井正道		電子計算機 I 養老真一
	9:00 ~ 10:30		端末室清掃		中等家庭科教育 II (5月) 榎原典子	
	III室			物理学(7月) 高嶋隆一		
2 限	I室	情報・言語 コミュニケーション I (B)		FORTRAN プログラミング I 飯間等	中等数学科教育 II 守屋誠司 (4・5月)	
	10:45 ~ 12:15	II室 伊藤伸一			化学結合論 伊吹紀男(6~7月) (1室のみ)	ライティング II (B) アントリュー・ オーバーマイヤー
	III室	製図 関根文太郎 (5~7月)			スポーツ情報 論 中比呂志 (6月~)	障害児教育工 学 梶川裕司
3 限	I室	情報機器の操 作 (B)	情報・言語 コミュニケーション I (C) 棚橋菊夫	Cプログラミング 基礎・応用 佐竹伸夫	情報機器の操 作(A) 佐竹伸夫	プログラミング 言語 I 倉本到
	13:15 ~ 14:45	II室 中峯浩		6,7月は1室の み		
	III室	留学生セミナー 伊藤伸一 (4.5月) 障害児心理特 論 II 三浦正樹 (6.7月)	総合演習 丹後弘司			
4 限	I室	情報機器の操 作(C)	情報・言語 コミュニケーション I (A)	Cプログラミング 基礎・応用 佐竹伸夫		プログラミング 演習 I 倉本到
	15:00 ~ 16:30	II室 佐々木真理	棚橋菊夫	6,7月は1室の み	基礎セミナー (情報教育 4,5 月) 伊藤伸一	
	III室	留学生基礎 A 伊藤伸一			基礎セミナー 中比呂志	
5 限	I室			Cプログラミング 基礎・応用 佐竹伸夫		
	II室		情報教育講究 I (B) 佐竹伸夫	6,7月は1室の み		
6 限	II室		情報教育講究 I (B) 佐竹伸夫			

情報処理センター利用授業時間割表 (平成16年度後期)

		月	火	水	木	金
1 限 9:00 ~ 10:30	I 室			数値解析論Ⅱ 若井正道	端末室清掃	健康調査論 中比呂志
	II 室					
	III 室		住宅計画学演 習 榑原典子			
2 限 10:45 ~ 12:15	I 室			FORTRAN プログラミングⅡ 飯間等		
	II 室					
	III 室			物質科学Ⅱ 高嶋隆一		
3 限 13:15 ~ 14:45	I 室				美術教育と コンピュータ利用Ⅰ 村田利裕	プログラミング言 語Ⅱ(A) 佐竹伸夫
	II 室					
	III 室		総合演習 沖花彰		美術教育と コンピュータ利用Ⅰ 村田利裕	
4 限 15:00 ~ 16:30	I 室	社会調査論 西城戸誠	分子軌道論 (10~1月) 伊吹紀男			プログラミング演 習Ⅱ(A) 佐竹伸夫
	II 室					
	III 室					
5 限	I 室	生活情報処理 荒木雅弘				
	II 室		情報教育講究 Ⅱ(B) 佐竹伸夫			
	III 室					
6 限	II 室		情報教育講究 Ⅱ(B) 佐竹伸夫			

平成16年度 教育学部授業科目

科目区分	授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
共通	基礎セミナー (情教)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学PVの環境について ・ 注意事項についての指導 	前	2	9	伊藤
	基礎セミナー (スポ健)	ワード・エクセル・パワーポイントの基本的な使い方について学習する。	前	2	18	中
	基礎セミナー (自然科学 コース I・II)	自然科学コースの基礎セミナー I・II の授業の一環として、約 70 分間、PowerPoint の使い方を指導した。基礎セミナーではプレゼンテーションの方法を習得することも目標としているため、入学間もない時期を選んで指導した。テキストはIPC提供のものを使用した。指導にあたっては細川教授の協力のもと行った。	前	2	22	芝原
	留学生基礎A	<ul style="list-style-type: none"> ・ セルの入力 ・ グラフの作成 ・ 統計関数 	前	2	5	伊藤
	パソコン BASIC 入門(A)(B)	教員養成課程の情報機器の操作に相当する入門講座。Word、Excel、PowerPoint、FrontPage、その他音声の録音などを行う。各クラス4日間の集中実施。9月末にPowerPointを使った作品を各自作って、それを発表する発表会を行って評価としている。	前	2	(A) 50 (B) 50	沖花 榊原
	情報機器の操作 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows の操作方法 2. Excelの基礎(VBAを含まず) 3. Word による文書作成 4. インターネットによる情報収集・検索の方法 5. Excel VBAを用いた成績処理 以上に関する講義と実習	前	2	59	佐竹

<p>共通</p>	<p>情報機器の操作 (C)</p>	<p>「小・中学校で使用する情報機器や教育用ソフトウェアの操作を習得する」ことを目標にした。 授業の概要は、全国の多数の小・中学校で導入・利用されている教育用統合ソフトウェア「Cube Net」(スズキ教育ソフト(株)製)の基本操作を習得する。次にこれらのソフトウェアを使用して、文書作成、作図・描画、作曲・編曲を行い、これらマルチメディア素材(文字・画像・音声等)を組み立てて、マルチメディア CAI 教材を開発・制作することを指導内容とした。作品は、個人制作とした。演習のテキストとして「かきくけコンピュータ」(スズキ教育ソフト(株)製)を用いた。 また、学習用 CAI 教材 CD-ROM「かきくけコンピュータ」(スズキ教育ソフト(株)製)と素材 CD-ROM (自作)を利用した。授業の形式は、コンピュータを使用した演習で、月曜日4限に情報処理センター端末室1で実施した。評価の方法は、作品・レポート提出を義務づけ、出席点や実習態度を重視して評価した。受講した学生の構成は情報機器の操作(C)では保健体育1名、国語教育1名(放棄)、情報造形1名、社会文化1名、美術教育18名、音楽教育6名、情報教育法では受講者なし、の計28名であった。 演習は、3つの部分から成り、①操作法の習得 ②A・B2つのボタンによるコース選択を入れた教材の制作 ③自由な教材の制作 で構成した。繰り返しの練習により、手続き的知識としての情報活用能力の育成を図った。受講生の制作したマルチメディア教材作品は、希望する受講生が持参した CD-ROM に記録して配布中である。</p>	<p>前</p>	<p>2</p>	<p>28</p>	<p>佐々木</p>
-----------	------------------------	--	----------	----------	-----------	------------

共通	情報・言語 コミュニケーション I (A)	HTMLによるホームページの作成 1. HTMLの基本知識 ① HTMLの基本ルール(HTMLファイルの作成方法、HTMLの基本構造) ② テキストの配置・装飾(見出し、段落、改行、センタリング、フォント、リスト) ③ テーブルの作成 ④ イメージの表示とリンクの設定 ⑤ フレームの利用	前	2	60	棚橋
	情報・言語 コミュニケーション I (C)	2. イメージデータの作成(画像データの取り込み、修正、GIFアニメーションの作成) 3. 課題の作成(自分のホームページ作成)			44	
	情報・言語 コミュニケーション I (B)	・ html ・ JavaScript の文法・実行	前	2	60	伊藤
	情報・言語 コミュニケーション I (D)	1. ワードによる文書作成(案内状、試験問題) 2. エクセルによるデータ処理(売上表、成績評価、気象観測など) 3. パワーポイントによる表現(4コママンガ、フリーテーマのプレゼンテーション) 4. ホームページ作成(HTMLの基礎、旅のスケッチブックなど)	前	2	22	中峯
	物理学	前の回にランタンの芯からトリウムによるX線計数を行った結果をエクセルを使用して、頻度分布にした。理論曲線との比較を行い、統計誤差について学んだ。素粒子物理の簡単な紹介をパワーポイントで行った。 ボーランドC++を用いて計算を行い、結果をエクセルを使ってグラフにする実習を行った。	前	2	15	高嶋

教職	中等理科教育 I	ストロー笛や各自好きな楽器を製作し、北海道立理科教育センターから提供されているパソコンソフト「音オシロ」を用いて音と波形の中学校理科授業を実践研究させた。	後	2	60	沖花
	中等家庭科教育 II	ワープロソフト、スキャナ、インターネット等を利用して、中学校技術家庭及び、高等学校家庭の指導書づくりを行い、受講生どうしで交換しあった。	前	2	18	榊原
	中等数学科教育 II	VB の初歩的なプログラミングと教材開発を行った。	前	2	53	守屋
	中等技術科教育 III	講義に PowerPoint を使用して説明した。実習としては、中学校技術科で活用している上記ソフトウェアを用いて学習指導方法を後述した。	後	2	9	増尾
	中等工業科教育 I	工業各科における教材をテーマとして、自主学习教材「プログラム演習」を作成し、全受講者の前で発表する。	前	2	13	畑中
	総合演習(A6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ GDViewO (Java applele 丹後作) の使い方 ・ GDViewO を使ったの数学的な体験 ・ 各自の作品制作 	前	2	20	丹後
	中等情報科教育 II	高校の教科「情報」免許を取得希望する受講生が、同じ受講生を相手に模擬授業を試みた。端末室を利用した授業シミュレーションは、初めて体験する者も多く、有意義なものになった。	後	2	20	中峯
	総合演習(B5)	小中高のそれぞれ選択した教科に関して 15 分程度の IT を用いた模擬授業をさせることを目標にそのためのコンテンツ作成技術の習得をまじえた演習を行った。動画の取り込み編集も行った。	後	2	20	沖花
産業技術	Fortran プログラミング I	FORTTRAN の副プログラム以外の文法を解説し、プログラミングの演習を行った。	前	2	16	飯間
	Fortran プログラミング II	FORTTRAN の副プログラムを説明し、中規模プログラムの作成を体験させた。	後	2	29	飯間
	数値解析論 II	数値計算を EXCEL を用いて行った。	後	2	20	若井
	製図	JWCAD による基本製図と三角法表現	前	2	40	関根

産業 技術	オブジェクト指向 言語 I	情報システム技術の概論、オブジェクト指向概論を講義、プログラム作成。C++、JAVAなど 20 題を指導。科学的発想とゆとり教育離れについてのレポートを書かせた。	前	2	40	小無
	プログラミング言語 I	<p>計算機におけるプログラミングの基礎事項として、C言語を題材とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Cコンパイラ(総合環境)の扱い方 ・ C言語の基礎(構文・分岐・ループ・関数・配列) ・ アルゴリズムの基礎(再帰) ・ 計算機システムの基礎(ハードウェア構成・2進法/16進法) <p>について講義を行った。</p>	前	2	34	倉本
	Cプログラミング基礎 Cプログラミング応用	<p>Cプログラミング基礎 hello world から基本データ型、演算子、配列、ループ、関数、関数の再帰呼び出しまでのCプログラミングの基礎的内容の講義と実習。</p> <p>Cプログラミング応用 ポインタを中心として、ビット操作、ファイル入出力、構造体、動的記憶割り当てを用いたデータ構造の構築などのCプログラミングの応用的内容の講義と実習。</p>	前	2	基礎 47 応用 43	佐竹
	プログラミング演習 I	計算機におけるプログラミングの基礎を、C言語を題材として演習した。演習内容は「プログラミング言語 I」の内容に準じ、それぞれ4件程度のプログラミング課題を与えた。	前	2	36	倉本
	プログラミング言語 II プログラミング演習 II	<p>1コマ~3コマ MS-DOS と WINDOWS の講義 具体的には、MS-DOS の内部コマンドと外部コマンド、MS-DOS のファイル・システム、パスの設定、行エディタ EDLIN と画面エディタ MULE、バッチ・ファイルの講義。</p> <p>4コマ以降 PASCAL によるプログラミングについての講義 PASCAL のコンパイルの仕方と実行方法、PASCAL の文法の基礎(基本データ型や制御構造について)の講義。</p>	後	2 2	44	佐竹

産業 技術	情報基礎実験	10/9,10/16,10/23,10/30 の計4日間、9:00～17:00 までパソコン、プリンタ、スキャナを使い、情報基 礎実験を行った。内容は1テーマ3時間とし、「ネッ トワークのしくみ」「Web サイトのしくみ」「Word によ る組版」「ベジェ曲線」「色彩学の基礎」「画像処理 の基礎」などのテーマについて実施した。	後	1	12	福間
	アルゴリズムと データ構造 II	アルゴリズムとデータ構造 I に引き続きプログラミ ングの効率化を目指した技法について教授した。 テーマとしてOK問題を取り上げ、モデル化とシミ ュレーションのためのシステム構築技術の習得に 努めた。なお受講生は非常に熱心に取り組み、そ の結果所定の目的は達成したものと思われた。	後	2	37	松村
社会	社会調査論	社会調査論の中で以下の内容について IPC を利 用した。 (1)資料収集・情報収集の仕方、データ・文献検索 などを web で行った。図書館の方のレクチャーも 受けた。 (2)フィールドワークの実践について教科書に付 属している CD-ROM を見た。	後	2	41	西城戸
数学	電子計算機 I	プログラム初習者を対象にプログラミングの基礎 の講義・実習を行う。使用する言語は Fortran95 で 内容は、変数、データの型、if 文、do loop による制 御構造、配列、サブルーチン、関数(再帰を含む) である。毎回、課題を課し、Mail により提出させて いる。授業資料(授業のレジュメ、課題、レポート問 題)は全てホームページ上においた。	前	2	40	養老

数学	情報学講究 I 情報学講究 II	<p>4月はC言語の総仕上げ。 5月以降は各自がそれぞれ卒業研究のテーマを決め、研究を進める。各自、卒業研究テーマと、使用言語は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お絵かきソフトの開発 JAVA ・住居の3D表示システムの開発 JAVA3D ・人物写真からなる画像データベースの検索システムの開発 C++ ・Web ページで利用できるアニメーションの研究 FLASH MX ・ファイル圧縮アルゴリズムの比較研究 C++ ・数字の自動認識システムの開発 JAVA 	前後	2 2	6	佐竹
体育	スポーツ情報論	エクセル・SPSS を用いて資料のまとめ方及び、分析の方法について学習した。	前	2	35	中
	スポーツ経営学	パワーポイントの使い方について説明を行った。	後	2	45	中
	健康調査論	実際に調査を実施し、エクセル、SPSS を用いて買い先の演習を行った。	後	2	3	中
英文	ライティング II B	Word と PowerPoint を利用してライティングの授業を行った。	前	2	8	オーバーマイヤー
国文	国文学特講	近代文学研究の入門的授業の一環として、インターネットを使つての調査の仕方を講義・実習した。各種検索エンジン、データベースの利用法を説明した後、具体的な課題を課し、実際に検索させた。	前	2	25	日比
発達障害	障害児教育購読	文献収集の手続き、検索の方法を説明した。	後	2	10	吉利

美術	美術教育と コンピュータ利用 Ⅱ	マッキントッシュのプリメア(動画編集ソフト)を利用し、実施した。デジタル動画の編集スキルを習得し、ビデオクリップを作成する授業である。DVフォーマットのカメラで撮影して、それを楽曲と合わせて編集していく。最後に鑑賞会を開催して評価する。本年は大変、質が高かった。ドラマ仕立ての作品もあった。学生の感性が生き生きと発揮される授業になっていると感じている。	前	2	21	安東
	美術教育と コンピュータ利用 Ⅰ	22人が登録しており、授業放棄が1~2人いるので、第1室で授業を行いながら、第3室へ移動していくかたちをとっている。フォトショップの利用希望が多い。基本的な画像ソフトからマルチメディア系のパワーポイント、ゴーライブ等を教えて、最後にフォトショップで専門的なレイヤー機能を教えている。フォトショップとイラストレータの利用台数を30台程度まで上げていただくことを望みます。	後	2	22	村田
理学	化学結合論	本質的には数学的概念である化学結合論を、WinMOPACを使うことにより、可視化して、理解することができた。	前	2	20	伊吹
	力学基礎	Basic 言語を用いて、物体の投射運動のシミュレーションを行った。	前	2	20	沖花
	天文地球物理学 実験	受講生はインターネット利用により、米国研究機関のHPを閲覧、主として、太陽画像データの調査収集を行った。その他、持ち込んだ天体画像の処理を行った。	前	2	5	前川
	物理学基礎	50m 走を撮影し、あらかじめ各自のビデオファイルにしていたものを、各自再生しながら50m間での速度・加速度の変化を調べると同時に走法の分析を行った。	後	2	70	沖花
	分子軌道論	本質的に数学的な概念である分子軌道を、計算ソフト(WinMOPAC)を使用することにより、空間的、立体的描像として学生が理解することに有益であった。	後	2	22	伊吹
	化学実験Ⅱ	表計算ソフトを用いて、酸塩基水溶液のpHと中和滴定に関するシミュレーションの演習を行った。	後	2	11	向井
	地学基礎実験	EXCELを用いて放射性元素による年代決定と地球内部の速度構造を求めた。	後	2	40	谷口 (慶)

理学	物質科学Ⅱ	講義資料のいくつかは Web の上に Upload されている。PDF にしてあるので AcrobatReader を使用し、Wing-NET も使用しながら解説を行った。	後	2	4	高嶋
農業 商業 情報	コンピュータと 情報処理Ⅰ	主としてスタイルシートを用いた Web サイト作成技術を解説した。また、Web サイトの作成を体験させた。	前	2	10	飯間
	情報通信 ネットワーク	授業の1時間分を利用。インターネットを使って情報セキュリティの講義を行った。	前	2	20	沖花
	コンピュータと 情報処理Ⅱ	最適化手法の説明を行い、未解決の最適化問題に対する新しい解法を設計させた。また、設計した解法をプレゼンテーションにより発表させた。	後	2	13	飯間
	マルチメディア 表現と技術	2/14 LiveMotion オープニングアニメーションの製作 2/16 LiveMotion オープニングアニメーション Navi ボタンの動作 2/17 GoLive で html ファイルの製作 2/18 GoLive で html ファイルの完成 提出	後	2	25	渡壁
家政	住宅計画学演習	住宅設計製図に必要な技法を習得させるために、フリーソフトの JW-CAD を用いて、住宅の基本図面である配置図および平面図、さらにインテリアパースの課題であるアイソメ図の製作を行いました。	後	2	7	榊原
	生活情報処理	静止画像、音声、動画のそれぞれの情報保存・圧縮形式に関して調査し、PowerPoint を用いて調査結果のプレゼンテーションを作成する。またプレゼンテーションは WING-NET を用いて行う。各単元終了後、それぞれのメディアを加工するソフトウェアを用いて実際にメディアを扱う演習を行う。	後	2	22	荒木

平成 16年度 特殊教育特別専攻科授業科目

授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
障害児心理特論Ⅱ	<p>エクセルを使用した心理・教育統計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記述統計 ・ χ^2検定 ・ F 検定 ・ t 検定 ・ アンケートデータの分析及びレポート作成 	前	2	6	三浦
障害児教育工学	<p>インターネット上から必要な情報を収集し、それを分析し、論点を明らかにして発表するという一連の実習を行った。これにより①障害児に関わる情報の効率的な収集の仕方を学び、②その情報を科学的な方法によって分析し、③明確な論理性をもって論を構築し、④効果的なプレゼンテーションを行う能力と技術の習得を目指した。</p>	前	2	15	梶川

平成16年度 大学院授業科目

授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
測定検査論特講	測定・検査論として多変量解析の基礎を講義しているが、その応用的側面の必要性から、実際のデータの解析を試みている。そして一応の結果がまとめられるように各自の判断で分析させてきた。	前	2	18	山内
理科教材特別研究Ⅱ	Visual Basic を用いて、まず走り幅跳びに関する運動方程式を微分の形で表し、プログラムで数値積分して、運動の軌跡を求めた。次に放射性元素の崩壊の際成り立つ微分方程式を数値積分し、その時間変化の様子を調べた。	前	2	11	谷口(慶)

平成16年度 教育職員免許法等

授業科目	授業内容	開講期	単位	登録者数	教員
図書教諭講習 情報メディアの活用	インターネットを通じて、与えられた課題に関する情報検索及び、検索結果について評価を行う。 また、検索結果について児童・生徒を対象として想定した説明画面の作成を行う。 講師より貸与したCD-ROMについて持ち込んだパソコンにて分析・解析を行う。結果について相互に理解を深める各種のサイトが提供している書誌情報を収集し、その効果や利用具合について評価をさせる。	前	-	48	柴田
情報メディアの活用	学校図書館での「情報メディアの活用」に関する講義を行い、演習活動時に、IPCを利用した。演習内容は Web OPAC を活用した文献検索演習、Eric を利用した外国ジャーナルの検索演習、電子図書館の体験演習、新着図書を紹介するプレゼンテーションの制作演習と Web ページへの交換の練習でした。	前	-	87	宮田

平成 16 年度集中講義など

4/19(月)	2限	端末室3	基礎セミナー(自然科学コース)	理学	芝原・細川
5/13(木)	4限	端末室1	国文学特講	国文	日比 嘉高
5/15(土)、16(日)、 6/12(土)、13(日)	1～4限	端末室1・2	情報メディアの活用	非常勤	宮田 仁
6/2(水)	2限	端末室3	力学基礎	理学	沖花 彰
6/22、29(火)	5限	端末室3	理科教材特別研究Ⅱ	理学	谷口 慶祐
6/24(木)	4限	端末室1・2	物理学基礎	理学	沖花 彰
7/13、7/20(火)	2限	端末室3	中等工業科教育Ⅰ	非常勤	畑中 伸夫
7/22(木)	4限	端末室2	天文地球物理学実験	理学	前川鉦一郎
7/31(金)～3(火)	1～4限	端末室1・2	パソコン BASIC 入門(A)	理学	沖花 彰
8/2(月)～5(木)	3～4限	端末室3	測定・検査論特講	非常勤	山内 引継
8/6(金)～9(月)	1～4限	端末室1・2	パソコン BASIC 入門(B)	理学	沖花 彰
8/6(金)、9(月)、 10(火)、11(水)	1～4限	端末室3(10、11 日は端末室1・2)	コンピュータと情報処理Ⅰ	非常勤	飯間 等
8/24(火)～27(金)	1～4限	情報処理室1	美術教育とコンピュータ利用Ⅱ	非常勤	安東恭一郎
9/2(木)～4(土)	1～4限	端末室1・2	オブジェクト指向言語Ⅰ	産技	中峯 浩
9/27(月)	1～4限	端末室2	情報通信ネットワーク	理学	沖花 彰
9/27(月)～30(木)	1～4限	端末室3	情報言語コミュニケーションⅠ(D)	産技	中峯 浩
9/30(木)	9時～17時	端末室1・2	パソコン BASIC 入門発表会	理学	沖花 彰
10/9(土)、16(土)、 23(土)、11/30(土)	1～4限	端末室3	情報基礎実験	非常勤	藪 哲郎
10/18(月)	4限	端末室3	障害児教育講読	発障	吉利 宗久
10/29(金)、11/1(月) 5(金)、8(月)	3～4限	端末室3	地学基礎実験	理学	谷口 慶祐
11/4(木)	1限	端末室1・2・3	中等理科教育	理学	沖花 彰
11/11(木)	3～4限	端末室2	化学実験Ⅱ	理学	向井 浩
11/16、30、12/7、14、 21(火)	1限	端末室1	中等情報科教育Ⅱ	産技	中峯 浩
11/25(木)、12/2(木)	1限	端末室1	中等技術科教育Ⅲ	非常勤	増尾慶裕
12/8(水)	1限	端末室3	スポーツ経営学	体育	中 比呂志
12/23(木)～26(日)	1～4限	端末室1・2	アルゴリズムとデータ構造	非常勤	松村 幸輝
平成 17 年					
1/11、18、25(火)	1限	端末室1	中等情報科教育Ⅱ	産技	中峯 浩
2/14(月)、 16(水)～18(金)	1～4限	端末室1・2	マルチメディア表現と技術	非常勤	渡壁 光温
2/24(木)、26(土)、 28(月)、3/1(火)	1～4限	端末室1・2	コンピュータと情報処理Ⅱ	非常勤	飯間 等

平成16年度情報処理センターニュースの発行状況

平成16年度は、IPC NEWS No.112 (2004年4月1日) から No.122 (2005年3月2日) まで合計11回発行しました。これらのニュースでは、各月の行事予定(定期保守日、休館日、利用相談日)および集中講義・公開講座の開催について利用者に知らせるとともに、計算機利用、ネットワーク利用についての様々な学内への情報提供を行なっています。

各月の主だった内容は以下の通りです。(行事予定、前月の再録は省いてあります。)

- No.112 IPCネットワーク事務補佐員の交代について
IPCからのウイルス発見通知メールの廃止
学内メールアドレスを変更したい方へ
メールアドレスのパスワード管理について
ダイヤルアップサービスの廃止
一括送信業務及びメーリングリストサービスについて
平成16年度前期IPC利用授業時間割表
W32/Netsky ウィルス情報
- No.113 昨年度卒業生、転出者のアドレス削除
本学ウイルス発見件数2, 3月
- No.114 IPC利用上のお願い
メールアドレスのパスワード管理について(情報化推進室より)
W32/Sasser ウィルス情報
本学ウイルス発見件数4, 5月
- No.115 古いLAN ケーブルつながっていませんか?
前期授業利用結果報告書の提出について
後期授業利用申請について
W32/Zafi ウィルス情報
- No.116 迷惑メールについて
端末室パソコンのリアルプレーヤ
W32/Mydoom ウィルス情報
本学ウイルス発見件数6, 7月
- No.117 ダイヤルアップ接続サービスの終了
本学ウイルス発見件数8, 9月
平成16年度後期IPC利用授業時間割表
- No.118 組織メールアドレスについて
来年度授業利用調査について
大量印刷について
- No.119 Zドライブ増やします。
フロッピーやCDの扱いについて
指導員ジャンパーについて

- 来年度授業利用調査について
平成 17 年度 I P C 利用授業時間割表 (平成 16 年 12 月現在)
- No.120 事務補佐員の交替について
継続利用について
利用結果報告書の提出について
ウィルス情報 年末年始警報
- No.121 来年度授業利用申請について
退職・転出する教職員 I D の登録延長受付について
本学ウィルス発見件数 12, 1 月
- No.122 技術系事務職員の配置について
指導員の交代について
利用時間の変更について

平成16年度行事日誌

平成16年

- 4月 1日 IPC NEWS No.112 発行
- 4月 1日 情報化推進室設置
- 4月 4日 ふれあい伏見ウォーク一般開放「インターネット体験」参加27名
公開講座インターネット配信
- 4月 7日 入学式インターネット配信
- 4月 8日 新入生ガイダンス
- 4月10、17日 新入生導入講習会 (参加1回生338名88%, その他61名)
- 4月18～23日 ミニ講習会 WORD・EXCEL (8回参加計47名)
- 4月15日 富士通との定例会議
- 4月27日 4月スタッフ会議
- 5月 6日 IPC NEWS No.113 発行
- 5月20日 富士通との定例会議
- 5月27日 5月スタッフ会議
- 6月 1日 IPC NEWS No.114 発行
- 6月 6日 社会人のためのパソコン講座 WORD 入門 (参加46名)
- 6月11日 国立大学情報処理センター協議会総会 (千葉大学)
- 6月24日 富士通との定例会議
- 6月24日 6月スタッフ会議
- 7月 1日 IPC NEWS No.115 発行
- 7月 7日 情報ネットワーク運営委員会
- 7月22日 富士通との定例会議
- 7月23日 崇仁小学校生6名見学
- 7月29日 7月スタッフ会議
- 8月 7日 オープンキャンパス 施設見学・インターネット体験 (参加179名)
インターネット配信
- 8月10～16日 夏期休館
- 9月 1日 IPC NEWS No.116 発行
- 9月 5日 社会人のためのパソコン講座 Excel 入門 (参加45名)
- 9月 9日 富士通との定例会議
- 9月25日 9月スタッフ会議
- 9月29日 IPC 運営委員会
- 9月30日 PPP 接続サービス終了
- 10月 1日 IPC NEWS No.117 発行
- 10月 7日 富士通との定例会議
- 10月28日 10月スタッフ会議
- 11月 1日 IPC NEWS No.118 発行
- 11月17日 富士通との定例会議

- 11月17日 旭丘中学校生15名、音羽中学校生28名見学
- 11月19日～21日 藤陵祭インターネット配信
- 11月23日 オープンキャンパス (参加16名)
- 11月25日 11月スタッフ会議
- 12月 1日 IPC NEWS No.119 発行
- 12月 2日 InternetWeek2004 (パシフィコ横浜)
- 12月12日 社会人のためのパソコン講座 WORD 入門 (参加29名)
- 12月15日 富士通との定例会議
- 12月22日 12月スタッフ会議
- 12月29日～1月5日 冬期休館

平成17年

- 1月 1日 事務補佐員交替
- 1月 4日 IPC NEWS No.120 発行
- 1月20日 富士通との定例会議
- 1月27日 1月スタッフ会議
- 2月 1日 IPC NEWS No.121 発行
- 2月17日 富士通との定例会議
- 2月23日 2月スタッフ会議
- 3月 1日 技術系事務職員採用
- 3月 2日 IPC NEWS No.122 発行
- 3月 6日 社会人のためのパソコン講座 Excel 入門 (参加42名)
- 3月 9日 鹿児島県 私立鳳凰高校生15名見学
- 3月10日 富士通との定例会議
- 3月14日 情報ネットワーク管理委員会
- 3月23日 3月スタッフ会議
- 3月25日 卒業式インターネット配信

情報処理センターワークステーション利用者一覧

(順不同・電子メール、インターネットのみの利用及び授業受講は除く)

氏名	利用目的
矢野 喜夫	研究・教育上の連絡および情報交換
伊藤 伸一	金属中の磁性不純物
中峯 浩	C言語による各種プログラミング
佐竹 伸夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学教育専修の開講科目「言語情報数学特論」と「言語情報数学特別演習」の教材作成 ・ 京大大型計算機センターの利用 ・ 自然言語コーパスの解析
宮崎 充弘	可換環論
大竹 博巳	学外からのwsml への接続
芝原 寛泰	結晶構造解析
養老 真一	授業「電子計算機 I」用の FORTRAN プログラミングの教材開発
森山 卓郎	教育 研究全般
手島 光司	流体運動の計算
谷口 和成	プラズマプロセッシングにおける数値解析
谷口 慶祐	破碎帯の力学的性質
向井 浩	液液界面現象の解析
田中 里志	第 3 紀以降の環境変遷の解明
芝原 寛泰	結晶構造解析
関根文太郎	工作機械の動解析
高見 稜子	魚群行動のモデリング
大崎 高志	p2p 形式によるアプリケーション送信ソフトの作製

情報処理センター関連委員会等歴代委員

	氏名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
運営委員会 ◎委員長 □役職指定	辻 朗	◎	◎			
	矢野 喜夫			◎	◎	◎
	沖花 彰	□	□	□	□	□
	梁川 正	○	○			
	佐竹 伸夫		○			
	中 比呂志	○	○			
	伊藤 悦子	○				
	友久 久雄	○				
	福間 則夫	○				
	武政 尹士	○				
	垣内 幸夫	○				○
	佐々木真理	○				
	三野 衛	○				
	荻野 雄		○	○		
	宗雪 修三		○			
	田中 里志		○	○		
	安江 勉		○	○		
	浅井 和行		○			
	中峯 浩				□	□
児玉 一宏				○	○	
榊原 典子				○	○	
小林 幸男				○		
	氏名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
運用担当者 ◎センター長 △次長	辻 朗	◎	◎			
	矢野 喜夫			◎	◎	◎
	寺田 光世	○	○	○		
	伊藤 伸一	○	○	○	○	○
	沖花 彰	△	△	△	△	△
	杉本 厚夫	○	○	○		
	谷口 慶祐	○	○	○	○	○
	榊原 典子	○	○	○	○	○
	古谷 博史	○	○	○		
	佐竹 伸夫	○	○	○	○	○
	松浦 賢長	○	○			
	村田 利裕	○	○	○	○	○
	中峯 浩	○	○	○	△	△
	佐々木真理			○	○	○
	浅井 和行	○	○			
中 比呂志				○	○	
事務局	秋山 剛志				○	○
	高木亜里子	○	○		○	○
	吉村 一美	○	○			
	高橋 千歳		○			
	武田 美紀		○			
	伊川ゆかり			○		
	仲井百合子			○		
	赤坂 雅子			○	○	
山下 陽子				○		

編集後記

いよいよ「情報」というキーワードに関して新しい波がやってくる。

まず、情報処理センターのコンピュータシステムが新しく機種更新される。4年ごとに行われる一大イベントである。今回の機種更新の特徴は、(1)端末室3の拡張や図書館グループ学習室の新設によるパソコン台数の増加、(2)各建物内ではギガレベルの高速ネットワークへの対応、(3)スパムメール対策などセキュリティレベルの向上などである。すなわち、ユーザーのパソコン利用に関わる環境の変化に適応したものになっている。

次に、高等学校で教科「情報」を学習した新入生が来年度4月より入学してくる。それに伴い、1回生前期に開講されているリテラシー科目「情報機器の操作」の内容を見直す必要が出てくると考えられる。そのため、現在の「情報機器の操作」において取り扱われている内容と今後の課題について、それぞれの担当教員に述べていただいた。

最後に、情報処理センターの地域開放という観点から開催されてきた「社会人講座」が、今年度でひとまず幕を下ろす。純粋にパソコン活用を学びに来られた方、パソコンを通じた生涯学習をと考えた方など多くの参加者から様々な好評を得た。しかし、パソコンの普及や家庭内での高速ネットワークの普及などの新しい波が押し寄せた結果、社会人講座はその役割を終え、新しい役割を担わなければならないと考えられる。ここに沖花彰先生をはじめ事務職員、学生インストラクターの方々のご努力に謝意を表したい。

編集委員

矢野 喜夫	沖花 彰	中峯 浩
榊原 典子	佐竹 伸夫	村田 利裕
佐々木真理	中 比呂志	伊藤 伸一
谷口 慶祐	秋山 剛志	高木亜里子